

國學院大學経済学部

平成29年度開講

『演習Ⅰ』（ゼミ）

募集要項

対象：現2年生



! 重要

演習Ⅰに関するお知らせは、大学HP上でも確認して下さい。
経済学部「演習」関係のHPアクセス方法

[国学院大学](#) > [在学生・保護者](#) > [授業・履修](#) > [演習](#) > [経済学部](#)

INDEX

| | | |
|-----|--------------------|----|
| I | 応募手順 | 3 |
| II | 演習（ゼミナール）に入ろう | 4 |
| III | 選考方法一覧（教員氏名 50 音順） | 10 |
| IV | 公開ゼミ一覧 | 14 |
| V | 募集ゼミ（教員氏名 50 音順） | 16 |

【各先生のゼミ内容紹介】

| | | | | | |
|--------|----|--------|----|-------|----|
| 石井 里枝 | 17 | 小木曾 道夫 | 19 | 尾近 裕幸 | 20 |
| 尾崎 麻弥子 | 22 | 金子 良太 | 24 | 久保田裕子 | 26 |
| 紺井 博則 | 27 | 東海林 孝一 | 29 | 高橋 克秀 | 32 |
| 田原 裕子 | 33 | 中馬 祥子 | 35 | 土田 壽孝 | 37 |
| 中泉 真樹 | 39 | 中田 有祐 | 41 | 根岸 毅宏 | 43 |
| 野田 隆夫 | 45 | 野村 一夫 | 46 | 橋元 秀一 | 49 |
| 秦 信行 | 51 | 藤山 圭 | 52 | 古沢 広祐 | 54 |
| 星野 広和 | 55 | 細井 長 | 57 | 細谷 圭 | 60 |
| 水無田 気流 | 62 | | | | |

| | | |
|-----|------------------------|----|
| VI | 教員別研究室一覧 | 64 |
| VII | 平成 29 年度経済学部「演習 I」募集日程 | 65 |

応募手順

～ 応募⇒選考⇒合格発表までの流れ～

★ 第一次募集スケジュール ★

- 応募受付 5/24(水)正午～5/30(火)12:50
- 選考期間 5/31(水)～6/6(火)
- 合格発表 6/12(月) K-SMAPYにて発表

(20:00 発表予定)

応募方法について

応募受付期間 5/24(水)正午～5/30(火)12:50 締切

※K-SMAPY上での応募のみ。

①希望する『演習Ⅰ』(ゼミ)を一つ決定する(複数ゼミの応募はできません)。

②5/24(水)正午よりK-SMAPY「授業の登録」→「希望ゼミの登録・確認」画面にて、応募する。

【注①】 応募期間内であれば希望ゼミを変更することは可能ですが、よく考えて応募してください。

【注②】 K-SMAPYでの応募登録をせず、課題を提出しても無効です。

選考方法について

※10ページ以降の「選考方法一覧」を確認し、課題・選考に取り組んでください。

【注意】 今回のゼミ応募から、どのゼミに応募する場合でも「2年前期履修確認表」の提出が必要になりました。特に指示がなくても、面接時にKスマからダウンロードして印刷したものを担当教員に提出してください(指定された科目の履修状況を確認するためです)。

【注意】 ゼミにより選考方法は多岐多様です。

特に課題の提出方法及び期限には注意すること。

【課題における注意事項】

①書式に指定がないものは自由とします。

②課題には必ず表紙をつけ、自身の所属・名前・応募教員名を明記して下さい。

面接/試験期間 5/31(水)～6/6(火)

○実施場所および実施日時を確認してください(遅刻厳禁)。

【注意】 課題を面接時に提出するゼミもあります。

合格発表 6/12(月)20:00(予定) K-SMAPYにて合否発表します。

重要 要項公開以降に選考や公開ゼミ等で変更があった場合は大学HP上でお知らせします。各自で確認して下さい。

演習（ゼミナール）に入ろう！

経済学部教務部委員
星野 広和

毎年5月から7月にかけて演習（ゼミナール；通称ゼミ）の募集（1次～3次）と選考が行われます。この募集要項は各ゼミの活動内容や特徴をまとめたものです。みなさんがこの要項を熟読のうえ、自分に最もマッチしたゼミについてよく研究し、ひとりでも多くの学生が応募・合格してくれることを期待しています。

(1) ゼミとは？

ゼミナール（ゼミ）は大学で専門的に学んでいく上で、また自分にあった学修を行う上で、講義とは異なる少人数かつ双方向の教育が受けられる演習形式の授業であり、重要かつ貴重な学びの機会です。また、学生同士だけでなく学生と教員がコミュニケーションを取りながら一緒に作り上げる最も大学らしい場所です。私たちはひとりでも多くの学生に自分に相応しいゼミに入り、ゼミの仲間や教員と大いに議論・討論してほしいと切に願います。自分の意見や考えを发表或し、多様な意見や価値観を聴いたり討論することはみなさんの学びをより深いものとし、就職活動（面接だけでなく集団討論のときも）やその後の職業生活にも大いに役立つことでしょう。みなさんが積極的かつ意欲的にゼミに応募することを期待しています。

後述するように、ゼミの開講パターンや開講時期、学生数や活動内容は様々ですが、一般的にゼミの特徴は次のように説明できます。

- ① 講義形式ではなく、学生と教員が話し合いながら一緒になって内容をつくりあげる少人数の演習系科目（専門応用科目）です。ゼミによって一学年の人数が10～15人とまちまちですし、他学年と合同で実施するゼミと学年ごと実施するゼミがあります。
- ② ゼミの主な内容は、(1)テキストを決めレジュメを作成して分担報告しながら精読する輪読、(2)学外のビジネスコンテストへの参加・発表、(3)テーマを決めグループあるいは個人で研究する論文作成、(4)グループディスカッションやプレゼンテーション、(5)サマーセッションやスプリングセッションの合宿、(6)新歓・暑気払い・忘年会などのコンパ、(7)工場見学や・企業見学、(8)OB・OG会などがあり、ゼミによって多彩です。
- ③ 講義科目とは異なって、ゼミでは学生同士および学生と教員の間での双方向のコミュニケーションが広く深く行われます。
- ④ ゼミに入るためには、ゼミ毎に行われる選考で合格しなければなりません。合格すれば「演習I」からゼミに所属することになります（3年次4月募集のゼミを除く）。ただし、一度希望するゼミに合格したら、合格を辞退したり、別のゼミに応募し直したり、ゼミを変更することはできません。（例えば、ゼミ応募に合格して2年生後期からゼミを履修した場合、3年4月募集で応募しているゼミに入り直したいと思っても、応募したり入り直したりすることはできません。）

(2) 開講形態

ゼミは2年後期からはじまります。ゼミに該当する科目には、授業期間中に実施する「演習I」（2年後期）、「演習II」（3年次）、「演習III」（4年次）と、左記の科目とセットで開講されるサマーセミナー、スプリングセミナー、「演習IV」があります。

サマーセミナーは夏休み中に実施される科目で、演習I、II、IIIと組み合わせて開講されます。また、スプリングセミナーは春休み中に実施される科目で、演習I、IIと組み合わせて開講されます。「演習IV」はゼミ論文（いわゆる卒論）作成のための科目で、演習IIIと組み合わせて開講されます。なお、演習IIIは、4年次通年で開講する「演習III（4）」と、4年後期のみ開講する「演習III（2）」に分かれます。

いずれのゼミも原則として、2年後期の「演習I」、3年通年の「演習II」は必ず開講されますが、サマーセミナー・スプリングセミナー、4年次の開講形態はゼミによって異なります。当然ですが、ゼミを通して修得できる総単位数も異なってきます（最小6単位～最大22単位）。

| 通常 | 演習I | | | 演習II | | | 演習III (4) | 演習III (2) | | | 演習IV |
|---------------|------------|----------|--------------|----------|-------------|---------------|--------------|--------------|-----------|--------------|------|
| サマー/ スプリング | 演習I サマー | | 演習I スプリング | | 演習II サマー | 演習II スプリング | | | | 演習III サマー | |
| 開講時期 | 2年 夏休み | 2年 後期 | 2年 春休み | 3年 通年 | 3年 夏休み | 3年 春休み | 4年 通年 | 4年 後期 | 4年 夏休み | 4年 後期 | |
| 単位数 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 | |

なお、サマーセミナー・スプリングセミナーおよび演習IVは、演習I～IIIとセットで自動登録されます。学生の都合で登録を取り消すことはできず、合宿に参加しなかったりゼミ論文を提出しなかったりした場合はDまたはRの評価となります。各ゼミの開講形態はそれぞれのゼミの紹介ページの冒頭部分に明記されていますので、熟読して各ゼミの開講形態を正しく理解したうえで応募して下さい。

(3) ゼミの選び方

ゼミによって活動内容や開講形態は様々ですから、ゼミの課題や学習内容、ゼミ（先生）とのかかわり方、つきあい方も変わってきます。各ゼミの内容や特徴をよく理解し、自分にあったゼミを選ぶことが大切です。その際、次の点を考慮しましょう。

- ① 自分の勉強したい「テーマ/分野（興味・関心）」に合致しているか考えましょう。ゼミのテーマ、教員の専攻/研究分野が自分にあっているかどうかは最も大切なことです。
- ② ゼミの活動内容をできる限り詳しく知って選びましょう。ゼミ説明会（5/10）、公開ゼミ、オフィスアワーを積極的に活用しましょう。
- ③ 開講形態にも注意しましょう。前述したように、3年次で終了するゼミや4年次後期まで続くゼミ、夏合宿・春合宿のあるゼミやないゼミ、卒論があるゼミないゼミとさまざまです。開講形態にも十分

に考慮してください。

- ④ 担当教員とのコミュニケーションは、大学で学ぶ上でも学生生活や将来を考える上でも、みなさんにとって貴重な機会となるでしょう。1年半～2年半の間、一緒に勉強する教員についてもできる限り情報を集め、ゼミ選考の参考にしましょう。教員については、國學院大學 HP の経済学部のサイトにある「専任教員の紹介」でも知ることができます。

(4) 応募にあたっての注意

- ① みなさんが**ゼミに応募できるのは2年次の5月～7月の募集期間です**(3年次4月開講のゼミを除く)。この間に**第1次、第2次、第3次**と計3回の募集・選考が実施されます。ただし、**第2次募集、第3次募集では、募集するゼミが限定されるので注意してください**。第1次募集から積極的に応募するようにしましょう。
- ② 今年度のゼミ募集から、各ゼミで**「修得済み科目」、「教員指定修得済み科目」、「履修しておくことが望ましい科目」**を設定しました。3月中に2年生の皆さんにはメールで告知され、4月の履修登録の際に注意して登録してくれたのではないのでしょうか。「修得済み科目」は経済学部の必修科目・義務履修科目で、ほぼすべてのゼミが5科目の単位を取っていることが応募の条件になっています。「教員指定修得済み科目」はすでに単位を取っているか、2年前期に履修している科目になります。「履修しておくことが望ましい科目」はこれまでに履修したことがある、または前期で履修していることが望ましい科目です。なお、「教員指定修得済み科目」で、2年前期の事前登録で落選したあるいは Business English などと重なった場合は、ゼミの担当教員に直接相談してください。
- ③ 3年次の4月初旬にもゼミの募集・選考があり、「演習I」を履修していない学生は応募できますが、ごくわずかなゼミしか募集しません(新しく着任される先生、派遣研究から戻られる先生、追加募集を行う先生のゼミなど)。ですから、第1次募集から積極的に応募するようにしましょう。
- ④ **ゼミの選抜に合格した後で、合格を辞退することはできません**。1つのゼミに合格すると、他のゼミの2次募集に応募できなくなりますので、よく考えて応募しましょう。
- ⑤ 合格した時点で「演習I」(サマーセミナー、スプリングセミナーを開講するゼミについてはそれらの科目も含む)が**自動的に履修登録**されます。ゼミの合格を放棄してもこの時間には他の科目を履修することができません。また、**2年次の履修単位制限(42単位)にも含まれます**ので注意しましょう。

(5) よくある質問Q&A

| 2年次の“留年”に関して | |
|------------------|--|
| Q1 | 2年次に進級制限のため留年してしまいました。ゼミの扱いはどうなりますか。 |
| A1 | ①1回目の2年次に 演習Iの単位を修得しなかった(履修しなかった) 場合、2回目の2年次に、もう一度演習Iの1次募集から応募できます。 ②1回目の2年次に 演習Iの単位を修得した場合 、3年次の演習IIの4月募集に応募することができます。 |
| 2年次後期からの“留学”に関して | |
| Q2 | 2年後期から 休学して (半年または1年間)留学したいのですが、2年前期の選考で合格し |

| | |
|-------------------------|--|
| | たあとで後期に留学し、3年次の演習IIからゼミに入れますか？ |
| A2 | 入ることはできません。 |
| | (理由) 休学しても2年前期に在学すれば3年に進級し、復学後は演習Iが履修できないためです。(ただし、以下「例外」に該当する場合は応募できます) |
| | ただし、6月30日までに所定の書類を経済学部教務委員会に申請し、経済学部教務委員会が「留学」と認めた場合と「協定留学(2年後期に行くセメスター留学等)」した場合は、例外的に3年次4月に開講する全ての「演習II」に応募できます。なお、「演習II」授業開始時には留学先から戻っていなければなりません。 ※経済資料室(若木タワー9階)に、所定の書類を取りに行き、手続きの仕方を確認してください。なお、今回の第1次募集期間内に希望するゼミの先生に相談しておくことを推奨します。 |
| Q3 | 2年後期から休学しないで(半年または1年間)留学したいのですが、2年前期の選考で合格した後で後期に留学し、3年次の演習IIからゼミに入れますか？ |
| A3 | 入ることはできません。 |
| | (理由) 協定校のセメスター留学等の公的な留学以外(例えば、私費留学)の場合は現地での行動が確認できず、しかも演習の単位修得要件である「(原則毎回の)出席」と教員による「対面指導」が受けられないため演習Iの単位修得ができないからです。自動的に、演習II以降の履修もできません。 |
| 2年次前期からの“留学”に関して | |
| Q4 | 2年前期から(半年または1年間)留学したいのですが、「演習I」に応募できますか。 |
| A4 | 応募できません。(ただし、以下「例外」に該当する場合は応募できます) |
| | ただし、2年次後期の「演習I」に出席可能であり、以下のABCの条件をすべて満たした場合は応募できます。 A)「演習I」が開講される後期には留学先から戻っており、出席できること。 B) 期日(前年度の3月31日)までに所定の書類を経済学部教務委員会に申請し、経済学部教務委員会が「留学」と認めたものであること。 C)ゼミ応募条件の課題とは別に、面接に相当するレポートを経済資料室経由でゼミ指導教員に提出すること。 ※経済資料室(若木タワー9階)に所定の書類を取りに行き、手続きの仕方を確認してください。 ※なお、2年次に1年間留学すると3年に進級できないため、翌年に「演習I」の応募をすることになります。 |
| 3年次前期からの“留学”に関して | |
| Q5 | 3年前期から1年間休学して留学する場合、演習IIが履修できますか。 |
| A5 | 復学した3年次前期から所属していたゼミの演習IIが自動的に登録されます。 |
| Q6 | 3年次の前期もしくは後期に半年間、協定校にセメスター留学したいのですが、3年次の「演習II」の扱いはどのようになりますか。また、4年次の「演習III」を続ける(履修する)ことはできますか。 |

| | |
|---------------------------|---|
| A6 | <p>3年次の前期もしくは後期に半年の間、協定校にセメスター留学する場合は、「履修保留」制度を使い、演習Ⅱ（およびⅢ）を継続して履修することができます。</p> <p>「履修保留」制度とは「演習Ⅱ」の履修を保留できる制度です。保留した履修科目は、3年次に留学していた時と同じ時期（前期なら前期、後期なら後期）に4年次に履修を再開することができます。つまり、3年次の後期にセメスター留学に行くために「演習Ⅱ」を「履修保留」した場合、4年次の後期に「演習Ⅱ」の履修を再開できます。4年次（後期）には「演習Ⅱ」と「演習Ⅲ」を平行して履修することになります。</p> <p>なお、「演習Ⅱ」の単位を修得できなかった場合は「演習Ⅲ」の単位も修得できません。</p> |
| 3年次後期からの“留学”に関して | |
| Q7 | 3年次の後期から休学して留学したいのですが、3年次の「演習Ⅱ」の扱いはどのようになりますか。 |
| A7 | 演習Ⅱの単位修得はできません。 |
| | <p>（理由）休学しても3年前期に在学すれば4年に進級し、復学後は演習Ⅱが履修できないためです。また、協定校のセメスター留学等の公的な留学以外（例えば、私費留学）の場合は現地での行動が確認できず、しかも演習の単位修得要件である「（原則毎回の）出席」と教員による「対面指導」が受けられないため演習Ⅰの単位修得ができないからです。自動的に、演習Ⅲ（Ⅳ）の履修もできません。</p> |
| 編入生、転部生、再入学生 | |
| Q8 | 編入（転部、再入学）により3年生になりますが、ゼミに応募できますか？ |
| A8 | 全てのゼミに応募できます。 |
| その他（ゼミの移籍、ゼミの応募など） | |
| Q9 | 2年次の演習Ⅰに合格して単位を修得しましたが、演習Ⅱから他ゼミに移籍したいのですが移籍できますか？ |
| A9 | 移籍できません。 |
| Q10 | 一度落選したゼミに2次募集で応募することはできますか。 |
| A10 | 応募可能ですが、合格実績はほとんどありません。 |
| Q11 | ゼミ応募の際、課題は提出したのですがK-SMAPYでの登録を忘れました。応募は認められますか？ |
| A11 | 認められません。 |

【一括登録の注意点】

ゼミは合格すると演習Ⅰ以降の全ての演習科目が開講パターンに応じて一括登録（サマーセミナー、スプリングセミナーも含む）されます。演習Ⅰの単位を修得し、演習Ⅱ以降の履修を取り消そうとしても演習Ⅰの合格時に全ての演習科目が登録済みです。履修修正でも取り消せません。年次履修上限の42単位に含まれてしまいます。そのため、演習Ⅱの時間帯に他の科目を履修することもできません。なお、演習Ⅲ以降については、演習Ⅱが演習Ⅲの前提科目であるために、演習Ⅱが不合格（DまたはR）である場合、演習Ⅲ以降の科目の自動登録が消去されます。

(6) その他

平成 30 年度 4 月から着任する（もしくは派遣研究から戻られる）先生がいる場合、平成 30 年 4 月にもゼミ募集がある可能性があります。しかしながら、現時点でどのゼミが開講するかは未定です。また、応募できるのは演習Iを履修していない学生で、3 年次 4 月開講ゼミに応募することができます （演習IIに応募していないか不合格のためゼミに所属していない学生であり、リタイア(D や R)の場合は再応募できません）。募集がある場合には改めてホームページ上でお知らせします。

選考方法一覧

| 教員名 | 面接/試験日時 | 提出課題詳細 | 提出方法 |
|--------|--|--|--|
| 石井 里枝 | 6月1日(木)昼休み～3限(木3に授業のある学生は応相談) ■場所は後日公開 | 自己紹介文とゼミの志望動機、抱負について、800字程度でまとめてください。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 小木曾 道夫 | 6/6(火)12:10～12:50 ■場所は後日公開 | エントリーシートをダウンロードして、必要事項を選択・入力して、提出する。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 尾近 裕幸 | 6月3日(土) 午後0時10分より 若木タワー10階 1003研究室 | ゼミで身につける知識・技能をつかって取り組みたい研究課題について800字程度で説明してください。 なお、面接時には成績表の写しを合わせて持参してください。 | 面接時持参 |
| 尾崎 麻弥子 | 6月1日(木)昼休み ■場所は後日公開 | 1. 最近関心を持った事柄に関する新書(岩波新書、中公新書 etc)を1冊読み、その内容の要約と感想(1500字程度)を書いたレポートを提出。(ワード形式、書式自由。レポートの形式がわかっているかについても評価しますので事前に一般的な参考文献の書き方などについて調べておくこと。使用した本の著者、書名、出版社名は必ず書くこと) 2. 簡単な自己紹介。1000字～2000字。同じくワード形式、書式自由。 | 経済学部資料室 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 金子 良太 | 6月2日金曜日 12:10～12:40に筆記試験 面接は6月5日2・4限・6日5・6限でみなさんの都合の良い時間に実施(面接には成績関連書類と検定合格者は検定合格証書も持参してください) ■場所は後日公開 | ①大学に入ってから現在まで頑張ってきたこと、これから卒業までに頑張りたいことを具体的に合計1000字以上で述べなさい。 ②「職場がヤバい! 不正に走る普通の人たち」(前田康二郎著、日本経済新聞社)を読み、筆者が全体を通じて言いたかったこと、あなたが最も印象に残ったエピソードとその理由を合計1200字以上で述べなさい。 ③(GPA2.6以上の方は③の課題は免除)「原因と結果の経済学」(中室牧子・津川友介著、ダイヤモンド社)のなかであなたが最も印象に残ったトピックを3点以上、合わせて1200字以上で述べなさい。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 久保田 裕子 | 後日公開 | 後日公開 | 後日公開 |
| 紺井 博則 | 6月5日(月)12:00～12:50 ■場所は後日公開 | とくに事前に提出する課題はありませんが、「日本経済」のテキスト第8章・第9章の内容について、面接のさい質問することがあるので留意して下さい。 | |
| 東海林 孝一 | 6月3日(土)10時～ ■場所は後日公開 | 5月30日(火)17時50分～19時までエントリーシートの記入(正味60分)をしてもらいます(場所は後日公開)。その時に6月3日(土)の面接時間を30分刻みで決めさせていただきます。エントリーシートの記入を欠席すると自動的に不合格になります。なおエントリーシート記入時に平成28年度後期成績通知書を持参して下さい。 | |
| 高橋 克秀 | 6月6日(火)6限 18:00にAMCのPC教室1に集合 | 基本的な数学の試験と面接 試験範囲:平方根、因数分解、二次方程式、二次関数 面接の課題:10年後の理想の私--そのために今何をするのか(5分以内の自由スピーチ) | |
| 田原 裕子 | 5月31日(水)5限、6限 ■場所は後日公開 | ①志望理由書(田原ゼミを志望する理由と自己PR):合わせて1000字程度。Word形式A4用紙で作成。読みやすさ、見やすさも評価の対象とするので、留意してください。表紙は不要ですが、冒頭に所属と氏名を忘れずに記入すること。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 中馬 祥子 | 6月1日(木) 12:00～12:45 ■場所は後日公開 | 過去3年の「新聞の社説」の中から自分の興味あるテーマを取り上げ、その内容を簡潔にまとめた上で、社説に対する自分の意見を1,200字以内で述べよ。なお、社説の記事はウェブ上から探し、そのURLを必ず記載すること。記載がない場合は、審査の対象外とする。また、選んだ社説のテーマそのものも、ゼミの内容との適合性について判断する材料となるので、注意深く選択すること。書式は自由であるが、氏名、学科、学籍番号を明記の上、A4一枚に収まるようにページ設定をする。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|---|
| 土田 壽孝 | 5月31日(水)15時から ■場所は後日公開 | 志望理由書、A4、12ポイント、横書き、1000字程度。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 中泉 真樹 | 6月3日(土) 12時50分～ ■場所は後日公開 | 5月24日(水)12時から5月30日(火)12時50分の間に(ただし、経済学部資料室開室時間帯)、若木タワー9階経済学部資料室で「中泉ゼミレポート課題」を受け取り、それに書かれた指示にしたがってレポートを作成し、面接または筆記試験の日時にご持参ください。また、面接または筆記試験の日時には英語の辞書(電子辞書も可)をご持参ください(面接または筆記試験で使っていただく場合があります)。なお、面接または筆記試験では、レポート課題に関連することや、「日本の経済」(1年次必修)で学習した基本事項についてもお聞きする(試験範囲とする)予定です。 | 面接または筆記試験の日時に持参 |
| 中田 有祐 | 6月3日(土)13:00～ ■場所は後日公開 | (1)課題:①会計関連科目の履修状況・簿記検定等の資格の取得状況、②なぜ財務会計のゼミに入ろうと思ったか、③ゼミで財務会計を学ぶことが自分の将来にどのように繋がるか、④その他志望動機・自己PR等について、合計で1,500字程度で書いてきてください。(書式自由) (2)面接:教員面接と学生面接を行います(可否は教員が決定)。人数によっては、1人1人の集合時間を分けて指示しますので、面接日が近くなったら、大学のメールを必ず確認してください。 (3)試験:試験は実施しません。 (4)持ち物:面接時に、1年次の成績表を必ず持参してください。GPA、会計科目・基礎演習の成績について、教員面接で質問します。持っていない場合、自動的に不合格となります。また、待ち時間用に暇を潰せるものを持参してください。 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 根岸毅宏 | 5月31日(水) 昼休み ■場所は後日公開 | ①・②・③について、それぞれ800字以上で説明してください。 ①自己紹介 ②ゼミで学びたいこと・ゼミに入る決意 ③最近気になったこと | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 野田 隆夫 | 6月3日(土)14時30分より ■場所は後日公開 | 「日本の経済」で学んだことについて簡単な筆記試験を受けていただきますが、あらかじめ「私がゼミに期待するもの」という題で1000字以上のレポートを作成し試験時に持参し提出してください。 | 面接時持参 |
| 野村一夫 | 面接はありません | 課題 エントリーシート(資料室に提出) 1 表紙 氏名(よみがなも)と連絡先(すぐに対応できるアドレスか SNS アカウント)。 野村ゼミ希望と明記。 2 自己紹介とこれまでの大学生活(盛る必要はありません)。 3 卒業までの自分の目標(盛ってもかまいません)。 4「これから自分が学ぶべきことは何か」について「私のリスタート」というタイトルで書いて下さい。 5 2年次は土曜3時限目です。その前後にも作業をすることがありますし、3年次も土曜日の可能性があります。また、夏休みと春休みにもゼミをやります。大丈夫ですか。事情があれば書いて下さい。原則的に特別扱いは認めませんが、事前相談は受け付けます(メールか SNS か 815 研究室へ)。 ・A4であれば形式も文体も分量も自由。A4プリントの範囲内でセルフプロデュースしてください。手書きでも長くてもかまいません。私を主語にしてすべて自分の言葉(あるいは自分の撮影した写真)で書いて下さい。 | 経済学部資料室 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 橋元 秀一 | 6/3(土)13:00～ ■場所は後日公開 | 別紙「橋元ゼミ入ゼミ質問票」に記入し、メールの添付ファイルで送ること。 | メール 【提出期日 5/24(水)～5/30(火) 】 【アドレス hsyu@kokugakuin.ac.jp】 |

| | | | |
|--------|--|--|--|
| 秦 信行 | 6月3日(土)13時からペーパー試験を実施し、その後面接を行う。授業のある人には配慮する。 ■場所は後日公開 | ①課題レポート：最近読んだ本の感想レポート(1500字程度)、②ペーパー試験は経済・経営学関連と常識問題半々を出題、③面接(約15分程度)、④1年次の成績、などを総合して選考する。 | ①課題レポートはK-smapyのレポート提出機能を使用して提出のこと。名前を忘れないように! 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 藤山 圭 | 5月31日(水)(3限～6限の間のいずれか) ■場所は後日公開 | 以下の(a)(b)をK-SMAPYで提出せよ。 (a)【成績表】 (b)次の①～⑤を漏らさず書いた【レポート】 ①志望理由(300-400字) ②将来の目標(300-400字) ③調査・研究したい企業(産業)や社会現象 ③-(1)その研究の意義(研究することで何が分かるのか、どのような知識を獲得できるのか)(300-400字) ③-(2)研究の動機(なぜ研究したいのか)(300-400字) ④教員からのメールを、届いたその日のうちに必ず確認できるメールアドレス(面接時間・懇親会の予定をメールでお知らせします) ⑤面接日(5月31日)の授業時間割 | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 古沢 広祐 | 6月1日(木)15時～(授業などで困難な人は事前にメール連絡のこと) ■場所は後日公開 | 以下の3点について、A4で6枚程度にまとめてください。 (1)応募動機と自己紹介(2)勉強・研究したいテーマに関する現状分析や課題について(4枚以上)(3)古沢ゼミ・ホームページ、著書・論文紹介を見ての感想やコメント *ゼミのホームページ・著書・論文紹介は、大学の経済学部、教員紹介から見る事ができます。課題は、資料室に提出となりますが、同じもののファイルを、念のためにメールでも提出して下さい (Email: furusawa@kokugakuin.ac.jp) | K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 星野 広和 | 6月3日(土) 13:00～16:00(予定) ■場所は後日公開 | (1)履歴書・自己紹介書(3ヶ月以内に撮影した写真を貼付。國學院大學指定のもの(生協で購入可)が望ましい。) (2)成績証明書および2年前期履修確認表(いずれもK-SMAPYからダウンロードし印刷したもので可) (3)次の資料を読んで、「大学やゼミでの学び」についての自分の意見と決意をA4用紙2枚(2,000字)程度でまとめたさい。沼上幹「卒業式を「自由な人生」の葬式だと思っている学生諸君へ」『創造するミドル』金井壽宏・米倉誠一郎・沼上幹編(1994年、有斐閣、p.283-329)。資料のコピーは経済資料室(9F)で受け取ることができる。また、面接は「グループ面接」で行い、面接前に先着順で希望の順番やグループを指定できる。以上、課題や面接について質問があれば星野まで連絡すること。hoshino-h@kokugakuin.ac.jp | 経済学部資料室 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 細井 長 | 5月31日(水)13時～18時・若木タワー10階1001研究室(開始時間は応募者に5/30にメールで連絡します) | エントリーシートの提出(大学 HP→在学生・保護者→授業・履修→演習→経済学部からダウンロード) | 経済学部資料室 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |
| 細谷 圭 | 面接を行う場合は、5月31日(水)の5限を予定しています。 ■場所は後日公開 | ゼミ内容紹介を読んだ上で、当ゼミで研究してみたいテーマ、そのアプローチ法などについて、A4版1枚(Wordの標準設定)にまとめてください。それをメールに添付して右記提出期間にお送りください(PCのアドレスから)。場合によって面接を行います、その際は送信アドレスにご連絡いたします。 | メール 【提出期日 5/24～5/26】 【アドレス khosoya@kokugakuin.ac.jp】 |
| 水無田 気流 | 1次選考:レポート 2次選考:面接(面接予定日・場所:5月31日(水)13:00～、予備日6月1日(木)13:00～14:20。受験者の授業時間を考慮し調整を行うので、必ずメールを確認すること。 | 次の2点を提出してください。 ①自己紹介と本ゼミ志望動機(word形式、併せて1000字程度)。 ②レポート課題:日本のメディアにおいて、1970年代と2000年代以降に表象される「望ましい男性像/女性像」に関する事例を1点以上とりあげ、それぞれの特徴と相違点について経済社会構造との関連から検証し、次いでそれらについてあなたの考えを述べて下さい(事例は、テレビ、映画、新聞、雑誌、CMその他自由に選択すること。word形式)。 | レポート:K-SMAPY(レポート提出機能)にて提出 【5/24(水)正午～5/30(火)12:50】 |

| | | | |
|--|-----------------|---|--|
| | <p>■場所は後日公開</p> | <p>式、字数は 2000 字以上とする)。 ※選考結果通知と 2 次面接日時調整のため、①自己紹介文の冒頭に、氏名、学籍番号、学科、メールアドレスを明記のこと。また事故防止のため、②レポートも氏名学籍番号明記のこと。書類選考の上、1 次選考通過者には面接試験を課す。</p> | |
|--|-----------------|---|--|

【注意点】

- ※1 教員により提出方法が違うので、よく確認すること。またメ切りを過ぎたものは一切受理しないので注意すること。
- ※2 経済学部資料室の開室時間は 9:00～17:00 です。
- ※3 必ず K-SMAPY で応募登録を行って下さい。応募登録をせず、課題のみを提出しても無効となります。
- ※4 面接/試験日時、場所に変更があった場合は大学 HP に掲載します。選考に臨む前に必ず確認して下さい。

公開ゼミ日時一覧

| 教員名 | 日時 | 教室 | 注意事項 |
|--------|--|---|---|
| 石井 里枝 | 5月18日(木) 12時15分～13時45分 | 1404教室 | 3限が授業の学生は、途中退出も可能です。 |
| 小木曾 道夫 | 実施せず | | |
| 尾近裕幸 | 5月11日(木) 5限 5月18日(木) 5限 | 3502教室 | 特にありません。 |
| 尾崎 麻弥子 | 5月18日、25(木) 4限 | 研究室 | 念のため、事前にメール(mayaozaki@kokugakuin.ac.jp)でお知らせください。あまりに人数が多い場合は教室に変更になりますので、連絡のあったアドレスに連絡しますので注意しておいてください |
| 金子 良太 | 5月12日(金) 16:10～16:50・17:50～18:30 5月19日(金) 12:05～12:45・14:30～15:10 | 5/12 3305教室 5/19 昼休み3405教室・4時間目は3305教室 | 皆さんの授業等の都合を考え、複数回公開ゼミを設定しています。毎回違う内容をやるので、複数回の出席もOKです。履修している授業に欠席して公開ゼミに参加することはないように。 |
| 久保田 裕子 | 5月16日(火) 4限 | 3308教室 | 特になし(出入り自由) |
| 紺井 博則 | 5月15日(月)・22日(月) 3限～4限 | 3409教室 | 2コマ続けて開講していますが、途中からの入室・途中退出は構いません |
| 東海林 孝一 | 5月19日(金) 4限、5限 5月26日(金) 4限、5限 | 1304教室 | 入退室自由です。最初の40分が通常ゼミで、後半は自由質問時間になります。4限が3年ゼミ、5限は4年ゼミで全ての回が別内容です。ぜひ見に来て下さい。 |
| 高橋 克秀 | 5月16日(火) 6限 | AMCのPC教室1 | |
| 田原 裕子 | 5月16日、23日、30日(火) 4、5限 | 3304教室 | 左記の日程に限らず、いつでも見学可ですが、ゼミの妨げにならないように静粛をお願いします。また、5月16日の5限はOBをゲスト講師に迎えた講義を予定しています。こちらも見学可ですが、通常のゼミとは異なります。 |
| 中馬 祥子 | 5月11日(木) 5限 5月18日(木) 5限 5月25日(木) 5限 | 1407教室 | 左記3回のゼミ【演習II(4)】は、学生たちの興味あるテーマについての文献報告と、それに基づく議論となります。事前準備等は必要ありませんので、お気軽にお越し下さい。 |
| 土田 壽孝 | 5月12、19、26日(金) 5限 | 3504教室 | 特になし。 |
| 中泉 真樹 | 5月22日・29日(月) 3限 | 3309教室 | 特別に公開ゼミをやるわけではありません。ふだんのゼミ(演習II、3年生のゼミ)を見ていただくだけになります。質問等はあとでうかがいます。 |
| 中田 有祐 | 5月12日(金) 4限・5限 5月19日(金) 4限・5限 | 3405教室 | 途中で入退室してもらって構いません。該当曜時に来られない人や相談がある人は、個別に連絡をください。 |
| 根岸毅宏 | 5月15日(月) 3限 5月22日(月) 3限 | 3304教室 | |
| 野田 隆夫 | 5月20日(土) 3限 | 3301教室 | |
| 野村 一夫 | 実施せず | 若木タワー 815研究室 | 今年度のゼミはありません。事前に説明なり相談なりを受けたいときはLINEのタイムラインに出校予定を公開していますので確認して下さい。 |
| 橋元 秀一 | 5月15、22、29日(月) 4～5限 | 1308教室 | 内容は2、3名の3分または10分のスピーチとテキスト『日本経済読本』輪読。 途中の出入り自由。 |

| | | | |
|--------|--------------------------|---|--|
| 秦 信行 | 毎週金曜日5限 16:10~17:40 | 2503教室 | 5月12日以降19日、26日、6月2日、いずれもOK |
| 藤山 圭 | 5月12, 19日(金) 5~6限 | 3302教室 | 5限は本読み, 6限は研究発表を行っている。 好きな時間に来て, 見学してくれて構わないが, 途中入退室や私語はゼミの邪魔になるので認められない。 |
| 星野 広和 | 5月16日(火)4限 5月23日(火)5限 | 1301 教室 | 公開ゼミ(いずれも輪読, グループディスカッションを実施)の見学を希望する場合は, 事前に希望する日時を星野まで連絡すること。 hoshino-h@kokugakuin.ac.jp |
| 細井 長 | 5月16・23日(火)4または5限 | 3410教室 | 4限は個人テーマの文献報告, 5限はTEDを題材とした討論をやっています。5限の方が動きがあります。各時限の途中入退室はご遠慮ください。 |
| 細谷 圭 | 5月19日(金)5限 5月26日(金)5限 | 2403教室 | 入退室自由です。 |
| 水無田 気流 | 5月11日(木)5限 5月18日(木)5限 | (5/11) <u>2501教室</u> (5/18) <u>5号館3階多目的ホール</u> | (5/11)ジグムント・バウマン『リキッド・モダニティ』のリーディング・ワークショップを行うので, 参加希望者は下読みしておくこと。 (5/18) 言語文化特別実習として, 「ポジティブな呪いの積み木インストール」を行う。希望者は先着順で若干名参加可とする。 |

募集ゼミ内容紹介

先生方にゼミのご紹介をしていただくにあたって、以下の質問項目について伺いました。

(※該当する項目のみ、回答していただいております。)

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|--------|--|------------|--|-----------------|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| 3年男 | 人 | 3年女 | 人 | 4年男 | 人 | 4年女 | 人 |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|

| |
|--|
| <p>(1) テーマ</p> <p>(2) キーワード</p> <p>(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)</p> <p>(4) <u>演習IV</u>以外で、論文などを課す場合の詳細 (枚数や時期など)</p> <p>(5) 先輩たちの主な就職先と傾向</p> <p>(6) 教員について(自己紹介等)</p> <p>(7) その他</p> |
|--|

石井 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|

※石井先生は 2019 年度に国外派遣研究のため、4 年次の演習IIIは前期集中（週 2 コマ）での開講となります。

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 経済史の基礎 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|
| 3 年男 | 8 人 | 3 年女 | 10 人 | 4 年男 | 8 人 | 4 年女 | 4 人 |
|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|

(1) テーマ

日本経済・企業経営の史的研究およびディベート

(2) キーワード

日本経済史 経営史 ディベート

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【2 年次】

経済史・経営史に関するテキストの輪読(グループでの報告という形式)

(競技)ディベートの方法について学び、実際に身近なテーマを設定してディベートを行う。

【3 年次】

「渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ」への参加およびその準備

テキストの輪読

サマーセミナーの実施(インターゼミ・合宿を含む)

【4 年次】

卒論指導、就活対策(ES の書き方、面接対策を含む)

就職に強いゼミを目指す！！

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

特にありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

2 年目のゼミなので、1 期生が今就職活動中です。金融・メーカー・不動産 etc... 、幅広く就職活動中です。

(6) 教員について(自己紹介等)

担当教員：石井 里枝

担当科目：経済史の基礎・日本経済史・近代日本経済史・日本経営史・日本の経済など。

学生時代および研究所研究員時代を東京で過ごし、その後名古屋の大学に赴任し、平成 28 年度より東京に戻ってきました。専攻は日本経済史・経営史です。前任校のときからゼミ活動、とりわけディベート(渋沢杯ディベート)には力を入れて取り組んできました。卒業するときにも一人でも多くのゼミ生が「このゼミにしてよかった」と思えるようなゼミづくりをしていきたいと考えています。

(7) その他

小木曾 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV ○ |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 9人 | 3年女 | 2人 | 4年男 | 6人 | 4年女 | 3人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

組織と集合行動の自己生産

(2) キーワード

組織、集合行動、自己生産

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期の「演習I」では、「自己生産」という用語を使用していないが、コミュニケーションの自己生産について書いてある新書の文献購読演習、3年通年の「演習II」と4年通年の「演習III」では各自研究テーマを決めての研究演習、4年後期の「演習IV」で論文指導演習を実施する予定です。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

演習I(2年後期)に文献購読レポート、演習IIの前期(3年前期)と演習IIの後期(3年後期)に研究レポートを課す予定で、字数のペース配分目標は演習IIの前期が4000字、演習IIの後期が8000字

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

業種の傾向はありません。過去、北関東地域の実家から通勤可能な勤務地限定の職掌への就職希望者は100%就職が決まっています。

(6) 教員について(自己紹介等)

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/~ogiso/index.html> 教員について

小木曾はゲームについて無知であるため、ゲームを研究テーマとしたい学生に対して、十分な論文指導ができません。

(7) その他

小木曾ゼミは、研究成果であるゼミ卒業論文の質を分子、(ともに実施しないゼミ合宿とサブゼミを含む)拘束時間を分母とする、研究成果労働生産性が高いゼミです。過去の4年生のゼミ卒業論文・ゼミ論などは<http://www2.kokugakuin.ac.jp/ogi1/index.html> ゼミHPを参照してください。4/21(金)まで

尾近 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------|-------|--------------|---------------|--------|---------------|--------------|-------|
| 演習 I サマセ | 演習 I | 演習 I स्पセ | 演習 II | 演習 II サマセ | 演習 II स्पセ | 演習 III | 演習 III サマセ | 演習 III 後期 | 演習 IV |
| | ○ | | ○ | | | ○ | | | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 経済理論入門 | | ミクロ経済学 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | マクロ経済学 | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| 3 年男 | 5 人 | 3 年女 | 1 人 | 4 年男 | 4 人 | 4 年女 | 0 人 |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|

(1) テーマ

経済分析の手法としてのミクロ経済学とマルチエージェント・シミュレーション技法を学ぶ

(2) キーワード

ミクロ経済学、マルチエージェント・シミュレーション、パソコン、数学

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

以下の文献をテキストにしてミクロ経済学とマルチエージェント・シミュレーション技法を学びます。ゼミでは、原則として、山影（2010）を一章ずつ学習します。また毎回の宿題として神取（2014）を精読します。

- ・ 山影進『人工社会構築指南：artisocによるマルチエージェント・シミュレーション入門』書籍工房 早山、2010年。
- ・ 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。

ミクロ経済学およびマルチエージェント・シミュレーションの学習にとって数学は大きな力となります。そのために以下のテキストを使って数学の学習に取り組みます。

- ・ A.C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎』第4版 シーエービー出版、2010年。

ゼミ合宿では、別途テキストを決めて、勉強をします。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

4年生の12月末日までに研究論文（A4サイズ20ページ程度）を提出してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

平成28年度卒業生の就職先は、(株)大塚商会、みずほ証券株式会社他で、1名が大学院に進学しま

した。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門分野：オーストリア学派経済学

國學院大學就任：平成 10 年 4 月 1 日

担当教科：ミクロ経済学、基礎演習 A、基礎演習 B、演習 1 (2)、演習 2 (4)、演習 3 (4)、前期課程・経済学史特論 1 (講義・演習)、後期課程・経済学史研究 1 (講義・演習)

(7) その他

「ミクロ経済学」や「マルチエージェント・シミュレーション」と聞くと、「とても敷居が高い」と感じるかもしれませんが、実際は楽しく、「様々な研究に役立つ」知識・技法です。今のゼミ生も楽しく、しかし真剣に勉強を続けています。是非、ゼミに入ってください。

尾崎 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 経済史の基礎 | | | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|---|
| 3年男 | 6人 | 3年女 | 3人 | 4年男 | 1人 | 4年女 | 人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|---|

(1) テーマ

西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の広い意味での経済（経済活動にまつわることをすべて。生産・流通・消費）から我々の今の生活を見直す。

(2) キーワード

ヨーロッパ、アメリカ、歴史、経済

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

前期の初めは各人が興味のあるテーマを事前に考えてもらい、それに関するディベート、ディスカッションをおこない、並行して卒論（(4)で説明）に関する説明と注意点について話し合い、論文の書き方について勉強し、前期の終わりまでにプレ卒論レポートを書いてもらいます（これはそんなに長いものではありません）。夏合宿ではそのテーマについてさらに討論し、後期は本格的に卒論執筆に入ってもらいます。3年生でほぼ卒論完成という状態にしておいて、4年生の就職活動に臨んでください（面接などで役に立ちます）。4年の前期は正規のゼミはありませんが、就職活動の近況報告を数回していただくために集まることがあります。情報交換はみなさんのためになりますので積極的に参加してください。4年の後期はそれぞれのテーマについてさらに深めて卒論を修正したり、そのテーマについてディベート・ディスカッションをおこなったりしてもらいます。下の学年のゼミにも参加してもらうことがあるので、来年度以降のことですが、ゼミの曜日には後ろにアルバイトなどを入れないようにしてください。正規の合宿以外にも希望があれば歴史的な（日本史になりますが）建造物見学などの学外授業・合宿も随時おこないます。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

1万字程度の卒論（ゼミ論）を提出していただきます。4年の前半は就職活動で頭がいっぱいになるので、むしろ3年生のうちに書き上げるくらいの勢いで準備します。本来経済史とは歴史的な一次史料を使用して研究をするものですが、日本でそれをやるのは大変難しいので、基本的には文献やインターネットから拾えるデータなどを利用することになります。テーマは基本的には欧米の歴史（20世紀などの近い歴史でもOKです）に限られますが、強い熱意があればそれ以外でも可にしています（ただしその場合できる指導には限りがあります。）ただしレポートではないので、つねに「なぜEUは現在うまくい

かなかったのか」などの（少しテーマが大きすぎますが）疑問点を最初に提示して、それについて複数の文献を使って「分析」を行ってください。直接データを使用して分析できればなおいいです。分量よりも、実際に自分の手と頭を使ってどれだけ分析できたかを評価の対象とします。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融のゼミ→金融関係 のように直結する学問ではないので個人の力量と関心によってかなり差があります。金融・保険・不動産・地方公務員・食品関係・アパレルなどまさに経済活動にわたるものはなんでもというところがあります。卒論のテーマと関連したところに就職している人が多い印象があります。実際に教員になった人はまだいませんが、高校教員免許取得率がわりと高いです。教育実習の時期は、ゼミをお休みにしてありますので教員志望の方も大丈夫です。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門はスイス・フランス国境地域の経済史です。趣味は映画や舞台などを見ることです。ゼミで欧米経済史に関連する映画を鑑賞して感想を話し合ったりしたこともあります。飲み会はそれほど頻繁にはやっていませんでしたが、みなさんのスケジュール次第では積極的にやっていきたいと思います。一見おっとりして見られがちですが、報告の内容などには結構突っ込みます。

(7) その他

積極的な参加を期待します。よろしくをお願いします。

金子 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 簿記と財務報告 A | | | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | 財務会計 | | | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 2人 | 3年女 | 11人 | 4年男 | 3人 | 4年女 | 7人 |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

本をたくさん読んで財務会計と公会計を学ぶ

(2) キーワード

読書、日商簿記検定、ビジネス会計検定、財務会計、公会計、財務諸表分析、卒業論文

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

ゼミは、本や雑誌をたくさん読みます。会計に関連するものが中心ですが、会計は経済や経営と密接にかかわるので、経済や経営に関連する書籍もたくさん読みます。その内容についてゼミで同級生・先輩や後輩と話し合うことで内容に対する理解を深め、自分の考えを持ち、それを的確に表現することができるようになります。比較的時間のある大学生にしかできないことですし、就職活動やその後の仕事にも役立ちます。(以下のゼミの進め方は、昨年度までとは異なりますのでご注意ください)

2年サマセでは合宿で訪問する企業・地域の財務諸表や最近のニュースを事前に調査し、2.3年生合同で合宿に行き、工場見学や役所訪問をします。9月には、ビジネス会計検定3級以上を受験します。2年後期・スプセは、様々な雑誌記事や有価証券報告書を参照してグループで企業を分析し、プレゼンを行います。11月には、日商簿記検定3級以上を受験します。他のゼミとの合同ゼミも予定しています。授業では、ゼミの学習につながる「公会計」の授業を受講します。

授業で知識をインプット→ゼミでは読書等を通じてさらに知識を深める→プレゼン等を通じて発信力を高める という流れです。当ゼミは、ゼミと授業の両輪で成り立っています。

3年生では、読書や財務諸表の分析、他ゼミとの合同の討論等を通じて理解を深めます。3年生夏には、最後の合宿に行きます。3年後期には、他大学で行われるプレゼン大会等へ参加するための準備や学習を行います。プレゼン大会では、他大学の学生との交流等も含めて貴重な体験ができますし、就職活動にも役立ちます。このほか、「のびのび経済」にグループ論文を投稿します。授業は、前期には「応用財務会計」を、後期には「国際会計」「財務諸表分析」「企業監査」を受講していただきます。

4年生では、より専門的な書籍や論文を読み、各自で卒業論文をまとめていきます。また2・3年生への指導や合同ゼミも行います。

2年半を通じて、「私はこれをしてきた」と自信をもって言えるような、貴重な体験ができるゼミにしていきたいです。皆さんの負担を軽くすることは心がけており、基本的にゼミは学年ごとの週1コマですが、ゼミへの事前準備には毎週2~5時間程度はかかりますし、大会前や論文の締切前には若干延

長されることもあります。しかし、そのくらい学習してはじめて「勉強した、身についた」ということができるでしょう。また、皆さんが発表・話し合いするのが中心で教員の話は限定的です。この点で、ゼミ以外の授業とは進め方や方針が大きく異なることにもご注意ください。

ゼミでは、ビジネス会計検定 3 級以上と日商簿記検定 3 級以上の合格が必須です。毎回ゼミに出席して課題をこなしていても、試験に合格できない場合には単位は取得できません。授業時間外に本や雑誌記事をたくさん読みますので、アルバイトを週 24 時間以上するなど十分な学習時間を確保できない方は、入ゼミをお勧めしません。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

3 年後期での「のびのび経済」や、プレゼン大会でもグループ論文を書きます。このほか、1200 字程度のレポートが頻繁に課されます。本を読むのが苦手な方、文章を書くことに極端な苦手意識を持っている方には向きません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

先輩たちの就職状況は、良好です。最も多いのは、銀行等の金融機関ですが、特にお勧めしているわけではありません。メガバンク（総合職・一般職）、地方銀行、信用金庫、証券会社など多彩です。平成 29 年の卒業生では東京都特別区へ 3 名就職し、これまでも県庁・市役所等の公務員を数多く輩出しています。税理士事務所に勤務する人もいます。最近、メーカーの営業や経理も増えています。

(6) その他

教員の専門は公会計ですので、財務会計だけでなく政府や非営利組織の会計も学習します。公務員志望者も歓迎です。飲み会は最低限ですが、新歓・OBOG 会・追いコンはあります。いずれもとても貴重な経験であり、全員出席です。ゼミに向くのは ①読書が好きな人（ライトノベルなどを除く）②成績が良い人（1 年の GPA2.6 以上）③数学・英語といった基礎学力がしっかりしている人（本を読んだり各種分析を行うため）④通常の授業が物足りなくて、多少大変でも充実した内容を求める人 ⑤早寝早起きがしっかりできる人 ⑥人の話を聞くだけでなく、自らの考えを発表する学習がむりなく楽しくできる人です。

ゼミの選考の倍率はここ 3 年 1.0~1.3 倍程度です（いずれも第 1 次選考で終了、第 2 次選考はありませんでした）。6 月 2 日の試験では、会計に関する基礎知識やゼミに入るうえでの留意点が理解できているか確認をします（30 分程度）。面接では、皆さんの学習意欲や今後の学習計画を、提出された課題等に基づいて 15 分程度聞いていきます（教員と応募者との 1 対 1 の面接です）。皆さんの応募をお待ちしています。なお、応募にあたっては、ブログ 良太の部屋 <http://blog.livedoor.jp/kanekosemi/> をよく参照してください。個別の質問については rkaneko@kokugakuin.ac.jp まで。

久保田 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 消費者主権の経済学* |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | 消費情報教育* |
| キャリアデザイン | | | 自然との共生* |

*ゼミに入った後の履修でよい

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 3年男 | 12人 | 3年女 | 13人 | 4年男 | 13人 | 4年女 | 2人 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|

- (1) テーマ 食と農、環境と消費者
- (2) キーワード 有機農業、食育（食農教育）、食品安全問題、農作業体験
- (3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)
グループをつくり、小テーマでの報告・発表（プレゼンテーション）、レポート執筆。
屋上菜園の手入れ（課外）、学内外の関連シンポジウム・セミナーなどに出席（課外、土日）
- (4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）
演習Ⅲ（4年後期）は、「ゼミ論」として、各自が論文（必須）。
字数 1万2千字以上
- (5) 先輩たちの主な就職先と傾向
特に傾向はないが、あえていえば食品関係、農業関係、他に銀行など。
- (6) 教員について(自己紹介等)
「市民消費者」の立場から食品安全問題にアプローチすると、食卓にある「食べもの」が辿ってきた道を溯り、農漁業などにいきつく。とりあえず農業—とすると、第二次世界大戦後急激に使用拡大した化学合成農薬、化学肥料などの食品・環境汚染問題、そして1990年代後半からの遺伝子組み換え作物の問題が目につく。他方、それらの使用を避けた有機農業は、欧米で意識的に始まり、南米やアフリカ・アジアでは伝統農業を延長する形で広がっている。日本では消費者参加型の活動で内発的に始まり、世界的にも注目された。地域に根付く伝統的な食文化、暮らし方とも密接。そのあたりとどうつなげるか、今年はそのような意味あいから、「食育」という大テーマのもとに、小テーマを考えようとしている。
- (7) その他

紺井 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み（修得中）科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|-----------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 世界の経済 | 日本の金融システム |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | 金融の基礎 | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 7人 | 3年女 | 2人 | 4年男 | 6人 | 4年女 | 3人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ： 日銀の金融政策と日本の金融システム、金利と為替相場、などに関連する分野
(毎年の金融情勢によって変わりますし、ゼミ生のニーズも考慮して決めます)

(2) キーワード： 金融市場・量的金融緩和政策・マイナス金利・円ドル相場

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

- ・ 2年次は、まず特定のテキストの指定された範囲について、レジュメを作成しプレゼンをしてもらいます（報告者以外も必ず次週のを予習し、質問を用意して参加すること）。
- ・ 3年次では報告者だけでなく、司会・進行の役割も担ってもらうようになります（社会人基礎力を鍛錬する場としても大切です）。
- ・ 3年次のゼミの最大の課題は年末までにその年の共通テーマにもとづくゼミ共同論文を完成させること（グループワークを土台に各章の執筆分担を行います）です。当然授業時間以外の学修時間が必要になります。
- ・ 合宿は、2年次の夏休み中にサマーセッション（8月下旬、3泊4日）を、春休み中にスプリングセッション（3月下旬、3泊4日）を実施します。3年次にも同じく夏・春2回のゼミ合宿をいずれも同様の日程で実施します。合宿参加は正課と同じく単位認定の対象ですから、最優先で日程を確保して参加して下さい。1回の合宿での学修時間 20 時間を超えますから、体力というより「頭の体力」も必要になりますね。
- ・ 3年次の春合宿のさいに、後輩の2年生にゼミ運営の役職交替があります。3年の4月からは文字通りゼミを引っ張る学年であることを自覚して下さい。
- ・ 4年生の前期と夏合宿はゼミの履修単位にはなりません、「就活」と両立させてゼミ参加を続けることを期待しています。後期にゼミの個人卒業論文の指導が始まりますからどんなに「就活」が忙しくても卒論のテーマを絞ること、そのための学修はたとえゼミに出席していなくても怠らないで下さい。
- ・ このゼミは学年が異なる2年生と3年生（または4年生も）が一緒になって2コマ（月曜の4限と5限）通して開講しているので、他の科目履修ができないことも承知しておいて下さい。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

- ・4年次後期のゼミ（演習III）では、個人のゼミ卒業論文提出してもらいこれが単位認定の対象になります。（ゼミの卒論のテーマは金融分野に関係するテーマであれば何でも構いません。字数は文字カウントで20,000字以上です。提出期限は後期の演習IIIの最終回までです。）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融分野のゼミなので、時期的にも広い意味での金融機関（決して銀行だけではありません）にまずエントリーするゼミ生は多いです。私が勧めているわけではありませんが、もし金融関連の会社にトライする場合は、ゼミで培ってきた「金融力」（当然個人差があります）を活かして活動して欲しいですね。ただしほんとうに金融機関を第一志望の業界にしているゼミ生ばかりではないことも付け加えておきましょう。なおこのゼミのOB・OGは約300名近くになりますが、実際に金融機関に就職している人は30%以下です。

(6) 教員について(自己紹介等)

私は北海道の函館出身です。大学・大学院・助手までの29年間住み慣れた土地を離れて東京暮らしももう37年以上になります。ですから年齢も察しが付くと思います。予め言うておくと、今回のゼミ募集を経て私のゼミに合格した諸君はこのゼミの最後ゼミ生になるはずで。つまり諸君の卒業と私の退職は重なります。

仕事に関係した趣味や特技を除いて、紹介しておく特技は料理（和・洋・中華を問わず）でそれなりのこだわりを持っています。お酒もこよなく愛しています。これは特技ではありませんが40歳から始めた硬式テニスは今もスクールに通っていて、この年で恥ずかしながら最近やっと「中級」クラスに入れてもらいました。毎週鬼コーチに絞られています。

それでも体力の衰えは隠しようありませんが、年齢の割に気力はまだ残っているつもりです。これが最後の募集要項であり、めでたく合格すれば最後のゼミ生になるのですからいっそう気合いを入れてゼミ指導にあたりたいと思っています。

(7) その他

このゼミはメリハリを大切にしてきました。ゼミ中はゼミに全力投球し遊ぶときは大いに楽しむべし！ 学生諸君の評価では厳しいゼミのひとつになっているようですが、それはともかく卒業の必修科目でもない演習I・II・IIIを履修し、初志貫徹するにはそれなりの意思と覚悟があるはずで。このゼミに入ったら、例えば日経新聞（とくに月～金の7面「金融経済」の頁）を毎日チェックすることがノルマになりますよ。そんな生活習慣は諸君にとって高いハードルでしょうか？ きっと「生活革命」になるでしょうね。現時点での金融の知識不足を嘆く必要はありませんが、これからの自分を変える必要はあるでしょう。そのうえで残りの学生時代を金融という分野やテーマに取り組むことに意欲と関心を持ち続けられる学生諸君と時間・場所を共有したいと願っています。

| | | | | | | | | | |
|------------|-----|------------|------|-------------|-------------|-------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I | 演習I スプセ | 演習II | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 簿記と財務報告 A | | 簿記と財務報告 B | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | 財務会計 | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 6人 | 3年女 | 4人 | 4年男 | 4人 | 4年女 | 7人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

会計の目で企業を考えよう

会計学は財務会計（主に外部報告を念頭に置いた会計）と管理会計（企業経営をサポートするための会計）に分けられます。私のゼミは管理会計論を中心とした会計学のゼミです。具体的には予算管理や原価計算について学びます。ごくごく簡単に言えば、「どうやってもっと企業経営を合理的に行うことができるようになるか」について考える学問領域とイメージして下さい。

予算管理とは、企業は厳しい競争を勝ち抜くために、事前に計画を練り、合理的な活動をしようとしています。そこで必要になるのが予算による管理です。全ての上場企業は予算による管理が義務づけられています。また原価計算とは企業が生産する製品の原価を計算し、そのコストの削減方法を理解しようとするものです。

企業はより儲けるために様々な工夫をします。深夜は客が少なくなるのに、なぜファミレスやコンビニは24時間営業をするのか。時にはライバル企業と手を結ぶことがあるのはなぜか。管理会計の目からすれば、企業のこうした戦略や戦術の理由は明らかになってきます。それを探求するのが管理会計論です。

(2) キーワード

- ①ゼミこそ大学、②自分の可能性への挑戦、③楽しく考える

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

①ゼミ合格発表後（2年次7月上旬）

ゼミ合格後の7月上旬頃に新歓コンパおよび打合会を行い、夏休み中に作成する課題レポートについて説明を受けます。

②演習I（サマーセミナー）

9月初旬の夏で演習I（サマーセミナー）4人で株式会社を設立し、売価原価のなる3種類の商品を売買して、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書を作成し業績を競い、株主総会で決算承認および取締役の選解任をします。また販売戦略の立案や予算編成も行います。2年生は主に伝票処理と金銭出納、商品有高帳の記帳を担当します。

③演習I（2年次後期）

9月下旬からゼミが始まると、早々にデータベースの利用の仕方等について図書館ガイダンスを受けてもらいます。2年後期の演習IIは主に財務会計の基礎力をつけるための期間です。

④演習II（スプリングセミナー）

夏合宿と同じくビジネスゲームをしますが、増資や有価証券の売買、敵対的買収ができるなどより複雑なビジネスゲームを学年対抗で行います。利益計画、予算編成もしてもらいます。また株主総会を開催して各会社の業績を評価してもらいます。

⑤演習II（3年次通年）

教科書をもとにして、管理会計（特に予算管理）の基本概念や技法について担当を決めてレジメを作成し発表してもらいます。なお私のゼミでは、事前に発表の許可を得てから発表します。すなわち課題について十分に調べ、一定水準以上になったと判断されてから発表することができます。よって発表できる水準に達していないと判断された場合は、何度も作り直しを命じられます。

また演習IIでは、青山学院大学との定期交歓ゼミ（2月頃を予定）のレジメ、論文作成が平行して行われます。また3年次終了までに日本商工会議所簿記検定2級に合格してもらいます。不合格の場合は4年次の演習IIIがD評価になります。

昨年度は私が体調を崩したために実現しませんでした。今年度からは青山学院大学経営学部矢澤憲一先生のゼミと合同研究発表会を復活させる予定です。

⑥演習II（サマーセミナー） および演習II（スプリングセミナー）

3年生なので新ゼミ生の指導をしてもらいながらビジネスゲームをします。3年生は主に社長、営業係を担当します。

⑦演習III（4年次通年）

演習IIで培った管理会計の基礎概念や技法をベースにして、活動基準原価計算、サプライチェーンマネジメントやシェアードサービスマネジメントなど新しい管理会計の展開例について学びます。演習IIと同じく発表形式をとります。また、夏休み前からは卒論の中間報告もしてもらいます。4年ゼミ生も合宿には必ず参加します。事前に相談なくゼミに欠席するとゼミを辞めてもらいます。

⑧演習III（サマーセミナー）

4年生は教員に代わってビジネスゲームの全ての運営をします。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

4年次1月の最初のゼミの時間に卒業論文を提出してもらいます。テーマは企業経営や会計に関わるものであれば各自の問題意識によって自由に選択できます。図表を含まずに20,000字以上のゼミ論の提出が演習IIIの単位認定の条件です。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

営業や経理でメーカーに就職する比率が高く、税理士志望者や金融機関がそれに続きます。

この数年はNEC、新日鐵住金、キューピー、いすゞ自動車、大和ハウスなどのメーカーや三井住友銀行などです。税理士志望のため、國學院大學大学院に4、青山学院大学大学院に2人在籍者がおります。国税専門官も累計4人になりました。

(6) 教員について(自己紹介等)

國學院大學経済学部卒業後、横浜市立大学商学部大学院修士課程を修了（経営学修士）し、青山学院大学大学院経営学研究科博士後期課程を経て現在に至ります。ベ이스ターズとお酒が大好きです。硬式野球部長でもあります。昔、学生につけられたあだ名は「明るいオタク」でした。結構気に入っています。

(7) その他

公開ゼミやオフィスアワー（金曜3限）に研究室に来て下さい。何でも答えます！

高橋(克) ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|-------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|-------|--------------|-------------|------|

※高橋先生は2019年度に国内派遣研究のため3年生までのゼミになります(4年次にゼミはありません)。

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 経済統計の見方 | | コンピュータと情報 B | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 6人 | 3年女 | 1人 | 4年男 | 4人 | 4年女 | 3人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

データ分析の基礎

(2) キーワード

ビッグデータ時代を生き抜く

統計学の基礎を身につける。統計ソフトを使えるようになる。

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

学生のプレゼンテーション技術向上に力を入れています。毎回担当を決めてパソコン室で発表してもらいます。合宿はありません。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

勉強の成果を最終的に経済学部の特賞論文への投稿することを義務としています。また、統計検定の受検を強くお勧めします。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

昨年度の例：帝国データバンク、みずほFG、JR東日本システムズ、富国システムズ、武蔵野銀行、慶応大学大学院

(6) 教員について(自己紹介等)

新聞記者→エコノミスト→大学教員

食道楽(食べすぎ) 世界遺産めぐりが趣味(100か所以上行きました)

(7) その他

今回の学生さんとは残念ながら1年半しかお付き合いできません。しかし、集中的に勉強すれば十分な成果を挙げることができます。

田原 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|-----|------------|------|-------------|-------------|-------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I | 演習I スプセ | 演習II | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
| | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 社会保障の基礎 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | 調査研究入門 |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 5人 | 3年女 | 4人 | 4年男 | 2人 | 4年女 | 3人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

- 少子高齢化・人口減少社会における持続可能な社会保障制度と地域づくりを考える。
- 代官山や渋谷についての地域研究やビジコン（神奈川産学チャレンジプログラム）への参加、卒論の執筆を通じて「勉強のしかた」「他人に伝わるプレゼンのしかた」を学び、実践する。

(2) キーワード

社会保障、地域おこし・地域づくり

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

- 主なカリキュラムは 1) 社会保障や地域づくりに関する勉強、2) 身近な地域でのグループワーク、3) ディベートやプレゼンテーション、4) 論文の作成（産チャレや卒論）です。
- 2年後期は教科書・新聞記事報告や、グループでの調査研究（昨年度は代官山における来街者の回遊性の研究）を通じて、テキストの読み方・まとめ方、データの集め方・整理のしかた、伝わりやすいプレゼンの基礎をしっかりと学びます。
- ゼミは3学年（前期は2学年）そろって連続で行います（→時間割を組む際は演習II、IIIの時間帯も空けておいてください。事情があれば応相談）。先輩の姿を身近に見ることで、1年後、2年後の自分がイメージでき、先輩も自分の経験に基づいて親身にアドバイスしてくれます。
- 上記以外に春・夏合宿、グループ調査、卒論発表会・OBOG会、代官山大学でのプレゼンテーション、代官山での地域貢献活動、公式飲み会（年に4～5回程度）などがあります。お互いをよく知り、学修を深めるためのイベントなので、特段の理由がない限り、全員参加が原則です。
- 部活のように勉強するゼミです。時期や人によって差がありますが、平均すると生活の3割～4割くらいをゼミに費やしているそうです。とはいえ、勉強のしかたや時間の使い方を工夫することで、就職活動はもちろん、サークルやバイトとの両立ができており、そうした能力が就活や仕事にも活かしているそうです（なお、グループワークを円滑に進め、学習効果を高めるために、サークルやバイトとバッティングした場合にはゼミを優先することをお願いしています）

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

- 2年次：代官山調査と代官山大学でのプレゼンテーション（グループワーク）
- 3年次：神奈川産学チャレンジプログラム、または渋谷調査（いずれもグループワーク）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融（メガ、地銀、証券）、インフラ（鉄道、通信）、メーカー（製薬、機械、食品、自動車）などがとくに多いですが、テーマパーク、出版・印刷、IT、流通、ディベロッパーなど多彩です。いわゆる「就活偏差値」最難関レベルの企業にも多数送り出しています。社会で活躍するOBOGからガイダンスや模擬面接指導など、さまざまな支援を親身にしてもらえるのが強みです。

(6) 教員について(自己紹介等)

高齢人口移動や介護事業の地域性に関する研究、渋谷についての研究をしています。

ゼミでは高い目標に向かって努力することのできるゼミ生とともに、私も全力投球しています。ゼミ生たちの努力が実を結び、さまざまな成功体験（産チャレや経済学部懸賞論文での上位入賞など）を重ねる瞬間に立ち会うこと、そして自信・プライドを持って（その根拠となる実力を備えて）社会に送り出すことが何よりの喜びです。

また、卒業後も付き合いが続くOBOGが多いので、彼らと「最近の若い人は・・・」と愚痴を言い合いながら飲むのが一番の楽しみです。

(7) その他

企業や社会で積極的に活躍できる人材を育成したいという思いから、学外のビジコンへの参加、学外のフォーラムでのプレゼンテーションや地域連携活動にも力を入れています。

○代官山大学

関連企業、地域の方、近隣大学の学生が参加して学びあうフォーラムです（年1回）。

<http://www.daikanyama.ne.jp/dsi/>

○神奈川産学チャレンジプログラム

神奈川経済同友会が主催する課題解決型研究プログラムです。

<http://www.kanagawa-doyukai.or.jp/activity/pdf/program.pdf>

http://pr.kokugakuin.ac.jp/event_extramural/2015/12/15/223954/

○ひまわりガーデン代官山坂

街の中心にありながら、活用されることなく、ゴミのポイ捨てなどが問題になっていた空き地に、地域の人たちとともにひまわりを植え、さまざまな交流活動を行っています。

http://pr.kokugakuin.ac.jp/event_extramural/2016/05/03/154439/

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 世界の経済 | | 環境開発問題入門 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 8人 | 3年女 | 8人 | 4年男 | 5人 | 4年女 | 5人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ： グローバルな経済格差と発展途上国における人々の生活

(2) キーワード： 格差、社会的差別、市場経済、生活

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

演習 I(2)の 10 月下旬までは、ビデオ教材や開発をめぐるシミュレーション・ゲームなどを組み合わせながら、ゼミ生の皆さん一人ひとりが、途上国の経済開発の現場で何が起きているのか、経済格差や人々の間の差別はどのように起こってくるのか、といった問題を、具体的に実感できる場を多く設けようと考えています。また、それと関連して、ディベートやグループ・ディスカッションの機会も多く設け、ゼミ生一人ひとりがより積極的に議論に参加できるよう工夫をしたいと考えています。その上で、ゼミ生各自が授業中に議論したテーマの中から特に興味を持った内容を「(仮)個人テーマ」として設定し、近いテーマの人たちでグループを編成。グループ毎に、私が指定した文献を読み、グループ発表を行います。授業最終回には、自らが選んだ文献について批判的に検討した「書評レポート」(4,000 字以上)を提出してもらいます。

演習 II(4)前期は、2 年次に培った文献読解力を基礎に、「個人テーマ」を最終決定。そのテーマに沿って自ら適切な文献を検索し、入手出来るようにすると同時に、グループ・ワークを中心にして、同じテーマについて異なる視点から書かれた複数の文献を比較検討しながら自分の考えをまとめていく訓練をします。前期の最後には、個人テーマについて、自らが選んだ複数の文献について批判的に比較検討した「書評レポート」(6,000 字以上)を提出します。後期は、前期の成果をふまえ、ゼミ生各自の自由報告と、それを題材としたゼミ生間の討論が中心となります。最終授業時には、このゼミで得た一年間の成果をゼミレポート(12,000 字以上)にまとめ、提出します。

演習 III(4)前期は、就職活動のことも考慮し、ディベートやグループ・ディスカッションのスキルを磨くことに焦点を当てます。主題は3年時に選んだ個人テーマをできるだけ踏襲し、知識や考察結果の蓄積を目指します。その上で、後期は、演習 II(4)の授業最終日に提出したゼミレポート(12,000 字以上)の改訂版を執筆する準備を行います。

中馬ゼミの2年半全体を見渡すならば、【2年次】基礎学習、【3年次】起承転結がしっかりした、根拠のある論理的文章を書けるようにする訓練、【4年次】3年までの積み重ねに基づき、他の人ときちんとした議論が出来るようにする訓練、といった感じになります。

演習Ⅰ(2)、演習Ⅱ(4)、演習Ⅲ(4) いずれも合宿の予定はありません。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

1. 演習Ⅰ(2年次)最終授業日・締切 4,000字書評レポート
2. 演習Ⅱ(3年次)前期最終授業日・締切 6,000字書評レポート(複数文献の比較検討)
3. 演習Ⅱ(3年次)後期最終授業日・締切 12,000字自由課題レポート
4. 演習Ⅲ(4年時)12月・締切 12,000字レポート(演習Ⅱ後期最終日に提出したレポートのヴァージョンアップ版)

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

傾向はまちまち、特にはっきりした方向性があるわけではありませんが、率直に言って、びしっと早い段階で内定を取る人と、就活そのものをあまりやらずに5年生になったり、フリーターになったりする人とのギャップが激しい感があります。直近の卒業生(平成26年度卒業)については、三井住友銀行、住友生命、千葉県庁など、いわゆるメジャーどころへ就職した人もいますし、起業を目的としてアメリカのMBA(経営学修士)を取ることを目指し、就職はせずに英語の勉強を始めた人、パイロットを目指して航空大学の受験勉強を始めた人など、本当に多様です。

(6) 教員について(自己紹介等)

研究の専門分野は、開発途上国の労働研究、ジェンダー研究、世界システム論研究など(研究業績は、大学ホームページの「専任教員の紹介」欄を参照してください)。中学・高校とクリスチャンの学校に通っていたこともあり、子どもの頃から、ことあるごとに格差問題や差別問題について考えさせられていました。その影響もあってか、20代の頃は、途上国開発の実務家になろうと思い、スリランカの山村で農村開発NGOのボランティア活動に従事。超高速飛行のゴキブリが顔に激突してもめげない神経は、その時に養われたものです。...とは言え、こうした活動の過程で、人々の生活を少しでもよくしようとする現場の努力だけではどうしようも出来ない、大きな世界経済の構造についてもしっかり学びたいと思うようになり、結局は学者の道に向けて腰を落ち着けた次第です。

最近の趣味は、旅行等で撮りためた写真やビデオを使って、本格的なフォト・ムービーを編集・作成すること。0.01秒の世界に全神経を集中し、老眼と肩こりが酷くなりました…。モットーは、「一度きりの人生。生きたいように生きよう、食べたいものを食べよう！」。

(7) その他

和気あいあいと、しかし論文の書き方やディスカッションの仕方などはしっかりと身に付くよう、ハードな面も併せ持つゼミにしたいと思っています。自ら「力をつけたい」方の応募をお待ちしています！

土田 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | | ○ | | | | | ○ | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | |
| コンピュータと情報 A | | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 3年男 | 19人 | 3年女 | 5人 | 4年男 | 10人 | 4年女 | 7人 |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|

(1) テーマ

証券投資論、ファイナンシャル・エンジニアリングおよび「証券投資の実践」

(2) キーワード

株式、オプション、先物取引

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

毎週、本ゼミ後にサブゼミがあります。

○ 国内合宿は春秋各一回 3泊4日、1日8時間勉強、義務です。

場所は、関東一円の宿泊施設。安物の学生宿は使わない。

○ 毎年 8月にアメリカ研修旅行、1か月でアメリカを横断する（証券投資で旅費を稼いだ者のみ。稼げなかった人はお留守番）。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

特になし。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

昨年は、野村証券、三菱 UFJ モルガン証券、三井住友銀行、みずほ銀行、大和証券、各地の地銀、岡三証券、東海東京証券、システム開発系、ワークスアプリケーション等です。

(6) 教員について(自己紹介等)

好きなもの：ビール、そば、ステーキ、生ハムのピザ、ラーメン、フレンチ、シュラスコ

嫌いなもの： 負け犬根性、目的のない人間、向上心のない者、日々無駄に生きる者。

(7) その他

1. 教科書は使用しますか？教科書以外にどのような本を読みますか。
テキストは使用する。参考文献は非常に数が多いが、完読してもらう。
2. パソコンの使用頻度やレベルを教えてください。
パソコンが使えないものはゼミには入れない。
3. ゼミで勉強することを自分たちで決められますか。
決められない。ゼミの勉強内容は決まっている。
4. 通常のゼミの勉強以外に、みんなで何かすることはありますか。
資格取得のサブゼミは希望者で実施・運営できる。
5. ゼミの雰囲気をお願いします。
和気あいあいとしている。 毎週、ゼミ後に希望者で飲み会がある(飲酒の強制はない)。
6. 個別の質問がある場合にはどうすればよいですか？
ア) オフィスアワーで対応 (オフィスアワーの曜時：金曜日 12時～13時)
イ) 公開ゼミを利用 (公開ゼミ実施日： 毎週金曜日 5時限 3504)
7. 注意事項

○本ゼミは、証券投資に興味がある程度の意識では務まりません。

○積極果敢に証券投資を実際実践し、結果を出さない者は速攻で「戦力外通告」を受けます。つまり首です。毎月、取引報告書の提出が必要です。

○机の前に座って、唯、本を読んでいるだけの者は必要ありません。

○行動する気力と勇気のある者だけが応募してください。

○サークルやクラブ活動を理由とした欠席は一切認められません。

○また、ゼミ規律は厳しく、スポ根系を超えた軍隊系ゼミです。一切の妥協は許されません。

○強靱な行動力で人生を切り開き、人生の最期を大笑いで終れる生き方を選択できる者のみが応募してください。優柔不断で何もできない者はお断りします。

以上。

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|-----------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III 後期 | 演習III ○ | 演習IV ○ |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|-----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 経済理論入門 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 3年男 | 10人 | 3年女 | 4人 | 4年男 | 12人 | 4年女 | 1人 |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|

(1) テーマ

役に立つ（応用力と実践力のある）ミクロ経済学を学ぼう
 （とくにビジネスあるいは経営（戦略）のためのミクロ経済学を学ぼう。学問分野としての名前はビジネス・エコノミクスまたは経営経済学）
 そして、経済学的なセンスを身に着けよう
 そのために必要となる数学（微分など）を学ぼう（復習しよう）
 教材を通して英語力（ただし読解力）を自主的に向上させよう

(2) キーワード

論理的かつ戦略的思考力 専門的基礎力に裏打ちされた自信 ともに学びともに成長

(3) ゼミの進め方

演習I：関連するミクロ経済学の初歩を中心に学び、土台固めをする。必要な微分などの数学の初歩も学ぶ。基本的には下記の主教科書の最初のほうにある **Economics Primer :Basic Principles** などを主な題材とする（適宜、事例を扱う）。なお、昨年度は、原則毎回、4人単位のグループワークを実施。

演習II（3年通年）：主教科書を主な題材としてグループワークを中心に学習・研究。

サマーセミナー：2日間は大学で、3または4日間は合宿形式で実施する、3・
4年生合同の集中セミナー（4年生は卒業研究中間報告）。

演習III（4年後期）・**演習IV**（4年後期）：個別研究とゼミ卒業論文の作成。履修上は各後期2単位となっているが、前期にも月1回ゼミ（自主ゼミ）を実施。卒業研究のテーマは自由。ただし、原則、経済学または経営学を応用してもらう。

演習IとIIの主教科書

D. Besanko, D.Dranove, M.Shanley, S. Schaefer, **Economics of Strategy** 7th edition, John Wiley & Sons（英文教材はこちらで準備する）

演習IIでは、さらに、（経営学からみた）経営戦略論の本も主教科書とする。

たとえば（これ以外もありうる、未定）

網倉久永・新宅純二郎著『経営戦略入門』、日本経済新聞出版社、2011年

- (4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）
（これまでは）とくになし。
- (5) 先輩たちの主な就職先と傾向
とくに傾向はない。コンサル、IT 関連、商社、流通、不動産、ホテル・レジャー業関連、保険、証券、建設、メーカー、公務員、大学院進学など、多岐にわたっている。
- (6) 教員について(自己紹介等)
専門分野は応用ミクロ経済学。とくに産業組織論（ 誤解をおそれずにいえば、この産業組織論を企業が上手に利用すると、ポジショニング学派の経営戦略論になる。それをみごとにやってのけたのが、マイケル・ポーターという学者。どんな人か調べてみてください！ ）と医療経済学。
まずは、会いにきてください。5月22日、29日には、ゼミ（演習II）見学が可能です（終了後、質問は大歓迎）。
- (7) その他
応募にあたって留意してほしいこと を書きます。
☞ シラバス も、きちんと読んでください。シラバス上、このゼミの到達目標（の前半）は、以下のようになっています。
「企業の経営戦略（企業戦略・事業戦略）に必要な経済学の初歩的な概念を説明でき、それらを使って実際の企業の経営戦略や産業組織を分析できるようになる。それらを踏まえ、より実践的な業界分析や戦略立案ができるようになる。」
うまくビジネスを成功させるには、ミクロ経済学的なセンス（ 経済的な諸関係に対する深い洞察力：たとえば簡単などころでは、自社がつける価格と自社製品に対する需要の因果関係はどうなっているか、少し複雑などころでは、ライバル他社の出方をどう読むかなどのゲーム理論的視点 ）がけっこう役立ちます。しかし、ミクロ経済学の学習には、抽象的な思考力 が要求されます。必ず、ミクロ経済学がどのような学問か、テキスト（私自身の著書を含め、たくさん、出しています）などを手に取ってしっかり調べ、自分に向いているかどうか、じっくりと考えてください。「思ったのと違うゼミだった」ということがないようにしましょう！
☞ 選考は「レポート」と「面接または筆記試験」によります。「面接または筆記試験」では、経済学部での学びの土台にあたる1年次必修科目「日本の経済」の基礎事項や、「レポート」に関連することもお聞きする、あるいは、試験範囲とする予定です。なお、「面接または筆記試験」には、必ず、英語辞書（電子辞書可）をご持参ください。

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|-----------------|-----------|------------------|------------------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ ○ | 演習II ○ | 演習II サマセ ○ | 演習II スプセ ○ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV ○ |
|------------|----------|-----------------|-----------|------------------|------------------|------------|--------------|-------------|-----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|---------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 簿記と財務報告 A | | 会社入門 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | 簿記と財務報告 B (※) | | | |
| キャリアデザイン | | 財務会計 (※) | | | |

(※) 2年前期に履修中で構いません。

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 10人 | 3年女 | 4人 | 4年男 | 7人 | 4年女 | 7人 |
|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ：「財務会計」と「国際会計」

財務会計とは、会計のなかでも企業の外部者向けに公表する財務諸表について、その仕組みや構造を学ぶ学問です。また、近年、経済のグローバル化、グローバル企業の増加に伴い、国際会計（IFRS）の重要性も高まっているため、国際会計についても学習します。

(2) キーワード：「好奇心」をもって「真面目に」かつ「仲良く」取り組みましょう。

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

①授業期間：

まずは教科書（各 3,000 円程度×2 冊）を使用して、財務会計・国際会計・企業分析（経営分析＋財務諸表分析）の基礎知識を身に付け、その中で興味をもったテーマについて、より深く学んでいきます。進め方は、担当グループが資料を準備し**全体発表・質疑を行った後、発表に対するグループワーク＋フィードバックを行う、という形式**です。また、大きなプロジェクト（学内／学外合同ゼミ、学外ビジネスコンテスト等）の発表直前には、ゼミの時間外にグループごとの個別指導も行います。

（参考：現3年生のスケジュール）

2年後期：企業分析①（経営分析＋財務諸表分析）、財務会計の基礎知識、学内合同ゼミ

3年前期：企業分析②（経営分析＋企業価値評価）、国際会計の基礎知識、学内合同ゼミ、
神奈川産学チャレンジプログラム（課題解決型研究コンペ）の準備・応募

3年後期：他大学との合同ゼミの準備・実施、『の～びのび経済』投稿論文執筆、卒論テーマ選び

4年：学術文献輪読、卒論執筆・報告

②サマセ・スプセ：

合宿では、主に「ビジネスゲーム」を行います。ビジネスゲームとは、グループに分かれて数期にわたって仮想的に企業を運営し、最終年度の各グループの企業価値を競うゲームです。

なお、合宿の費用は、交通費込みで1回あたり3万円程度に抑えています（卒業までで計3回）。2016年度は、サマセ：千葉県長生郡、スプセ：山梨県南都留郡山中湖村で合宿を行いました。

③ゼミ外での学習活動：

現3年生は、すでに2年後期・3年前期に学内合同ゼミを行っており、3年の秋頃には神奈川産学チャレンジプログラムへの応募、12月には他大学との合同ゼミを予定しています。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

3年後期に行う他大学との合同ゼミでの報告について、『の〜びのび経済』（学内誌）に投稿してもらう予定です。（既存の報告を論文調に整えるので、新規に執筆してもらうわけではありません。）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

中田ゼミは創立5年目で、卒業生は3期生まで出ています。就職先は、金融業がやや多いですが、さまざまな業種に散らばっており、特段の傾向はありません。

(6) 教員について(自己紹介等)

研究は、財務会計理論・国際会計に関するテーマが主です。性格はマイペースで、座右の銘は「蓼（た）で食う虫も好き好き」。何事も拒まずに、まずは受け入れる姿勢が肝心だと思っています。趣味は、音楽鑑賞（特にメタル）、ドライブ、外食巡りなど。

聞きたいこと等あれば、気軽にメールをするなり研究室にお越しく下さい。

⇒研究室：813 研究室、 オフィスアワー：木曜昼休み

（※会議等入っていることもあるので、事前のアポイントメントをお願いします。）

(7) その他

①複数学年・連コマでのゼミ

先輩・後輩間の交流を深め、また学習内容を深める目的で、**複数学年合同**でゼミを行っています。2017年度後期は、金3限：4年卒論指導、金4限：3・4年ゼミ、金5限：2・3・4年ゼミ、金6限：2・3・4年ゼミ、といった形でゼミを行うことを予定しています。

このように、**毎週2～3コマ連続でのゼミ参加**が前提となりますので、注意してください。

②課外活動（飲み会・食事会）

飲み会や食事会などの懇親会も随時開催しています。OB会、4年生卒業パーティーのほか、全体での懇親会は半期に1～2回程度です。その他月に1～2回ほど、有志による少人数での懇親会（教員も参加）があります（学生同士は、毎週のように食事に行っているようです）。

③ゼミ選択について

ゼミは、サークルやアルバイト以上に、大学生生活の軸となり、卒業後の思い出となる活動です。また、就職にも強く影響しますので、ゼミ選びは人生におけるとても重要な選択でもあります。ゼミを選ぶ際に自らの将来を考えるとともに、事前に、募集要項、ゼミ選びの手引き（学生委員会作成）、個別ブース相談会、公開ゼミなどをフル活用して、教員・ゼミ生の雰囲気、学習内容、卒業生の進路など必要な情報をつかんでおきましょう。

根岸 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV ○ |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 財政の基礎 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | 現代日本経済 |
| キャリアデザイン | | | 現代の企業経営 |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|---|-----|---|
| 3年男 | 9人 | 3年女 | 6人 | 4年男 | 人 | 4年女 | 人 |
|-----|----|-----|----|-----|---|-----|---|

(1) テーマ

根岸ゼミでは、「現代の経済問題」について学びます。

ゼミのテーマが「現代の経済問題」と大きなものになっていますが、これは私の専門分野と関係しています。私の専門は財政学という分野で、これは政府の活動や制度・政策を研究する学問です。政府の活動は多岐にわたり、話題になる経済問題のほとんどに政府が何らかの形で関係しています。そのため、極端に言うと、今おこっている経済問題のすべてが根岸ゼミでの勉強の対象になります。

各自が興味・関心に合わせてテーマを設定し、勉強してください。テーマの設定に困ったら、他のゼミ生、先輩、私がお手伝いをします。

テーマの設定は自由でも、2年次、3年次、4年次で行うゼミの課題は決まっています。以下の**(3)**に書いてあります。よく読んでください。

ゼミの目標は、それぞれの興味・関心に応じて経済問題を学びながら、「説明する力、議論する力、書く力」を身につけて、全員でもう1段も2段も向上することです。1人、2人で一所懸命に勉強するよりも、ゼミ生全員で勉強すれば、互いに磨き合うので、より大きく飛躍できます。誰かに任せたり、寄りかかるのではなく、全員が積極的に勉強して、1人で勉強する以上の成果を手に入れることが、ゼミというグループで勉強する意義だと思います。

(2) キーワード

目標は、「手を抜かず」、「楽しく」、「全員が勉強する」ゼミにすることです。

また、学生には次のことを期待しています。

根岸ゼミは、2年次の「演習I」からはじまり、4年次の後期末に卒業論文を提出して終わります。ゼミ生に期待することは、第1にずっと続けること、第2に積極的にゼミにかかわろうとすること、第3に誰かに任せたり、寄りかかろうとしないことです。

それ以外に、「勉強する人」、「意欲のある人」などを期待したいです・・・が、卒業生を思い浮かべると、すべてのゼミ生がはじめから意欲的に勉強していたわけではありません。むしろ、ゼミで仲間と接することが刺激になり、意欲が出て、積極的に勉強するようになったというゼミ生の方が多いでしょう。そのためにも、ゼミ生と積極的にかかわろうとすることが大事です。ゼミの活動や行事には必ず参加してもらいます。

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年次の大きな課題は、本を読む習慣をつけ、興味や関心があることを見つけることです。その興味関心が、3年次でのグループ論文のテーマや各種のコンテストへの参加につながります。

①課題本を読む。②自分の興味や関心を見つける。③3年生の時にどのような勉強をするのか、決める。

3年次の大きな課題は、グループ論文を作成してインナー大会に参加すること、外部のコンテストに参加することです。

前期は、グループ論文も作成のための、また外部のコンテストに参加するための準備をします。後期は、グループ論文を完成させてインナー大会に参加し、また外部のコンテストでプレゼンをします。加えて、卒業論文のテーマを決めます。

4年次の大きな課題は、卒論を作成することです。

前期は、①文献リストを作り、②勉強の成果を発表し、③A4版で7～10ページ分の原稿を作成します。後期は、①10月までに原稿(20ページ程度)を作成し、②その後全面的に原稿を直し、③卒論を完成させます。

夏休みには、グループ論文と卒業論文の中間報告会を行います。

春休みには、卒業論文の報告会を開催します。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

1つ上の(3)で、詳しく書いてあります。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

特別な傾向はありません。ほとんどが、第1希望から第3希望くらいまでの企業に就職しています。

(6) 教員について(自己紹介等)

1969年生まれ、群馬県出身、國學院大學経済学部の卒業生なので、皆さんの先輩です。

研究テーマは、福祉国家財政の研究です。より詳しくは、第1に、アメリカの貧困対策・所得保障政策、政府間関係を研究しています。第2に、日本についても、社会保険や社会保障の財政問題を研究しています。

(7) その他

質問がある場合は次の方法で連絡をください。

ア) メールで相談(アドレス: negishi@kokugakuin.ac.jp)

イ) オフィスアワーで対応(月曜日、12:00-12:50、0818 研究室)

ウ) 公開ゼミを利用(公開ゼミ実施日: 5月15日(月)と22日(月)の3時限目、3304 教室です。また、いつでも見学に来て下さい。)

野田 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 3年男 | 11人 | 3年女 | 2人 | 4年男 | 11人 | 4年女 | 1人 |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|

(1) テーマ

日本経済の構造変化

(2) キーワード

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

3年の前期までは、各参加者は自分が掘り下げて研究したいテーマを探しだす作業をし、後期にそのテーマを深く掘り下げ、学年末にレポートをまとめる、というかたちですすめます。あわせて、経済学の基礎を固めるために教科書をみんなで読んだり、英語をわすれないように英語の勉強をしたりします。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

3年終了時に、8000字以上の期末レポートを提出していただきます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

さまざまな分野に就職しており、傾向は見出すことができません。

(6) 教員について(自己紹介等)

「日本の経済」「経済理論入門」ならびに「マクロ経済学」を担当しておりましたので、かなりの方とは出会っているものと思います。ちなみに、趣味はサイクリングと音楽鑑賞（ジャズ）です。

(7) その他

ゼミは、勉強だけでなく、いろんなことについて雑談し議論する場です。ほかの人とは違ったことが言いたくなってしまう天邪鬼な人を歓迎します。

野村 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----|
| 3年男 | 休講 | 3年女 | 休講 | 4年男 | 9人 | 4年女 | 16人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----|

(1) テーマ

トランスメディア環境におけるクリエイティブの条件

- ・多様なメディアが情報とコンテンツの玉突きをしている状態を「トランスメディア環境」と呼ぶことにします。まだ私しか使っていません。これからいっしょに世界に拡散させましょう。すでにある概念としては「間テキスト性」「間メディア性」がありますが現在の情報環境を想定していません。
- ・この環境において生きるとはどのようなことか。そこにはどのような仕事や役割があるのか。そこでは何が創造的な仕事なのかについて作品を制作しながら自分ごととして考えましょう。

(2) キーワード

シラバスでは「到達目標」として公式文体で書いてあります。突っ込んで表現すると、こんな感じ。納得できないときは事前に質問してください。卒業式まで、これで通します。

- ・ノンジャンル（好奇心いのち！ 好きか嫌いかはどうでもいいじゃん）
- ・速攻（前のめりでスタートダッシュ！ スピード感を優先する）
- ・プロダクト（ひたすら作品づくり！ 作ってみたいとわからない）
- ・即興と対話（手ぶらで何が言えるか、何ができるか、何をわかりあえるか）
- ・オープンなマインドセット（すべて公開する不屈の根性）

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

- ・ファーストミーティング（2年前期終了時に2限目から半日かけてお茶会）
- ・メディア系博物館見学会（2年夏に印刷・広告系に行きます）
- ・シーズン1（2年後期）自分の物語・ファボ・ラジオトーク・Facebook・ブックレビューの文庫本のでんこ盛り（シラバス通りにやります）。シラバス後半の「企画プロジェクト」は3年前期にまわします。そのかわりシラバスに掲載した教科書・参考書の中から10冊ぐらいを選んでエッセンスを学びます。いずれもビジネススキルに関するセオリーを書いたものばかりなので、アカデミックな本ではありません。けれども薄っぺらいハウトゥとはレベルがちがいます。このさい読書力をつけましょう。ビジネススキルを理解しましょう。
- ・2年春休み（企画会議スタートアップ。3年前期の企画が決まるまで何回か集まります）

- ・シーズン2（3年前期）企画プロジェクト（チーム単位）
- ・シーズン3（3年夏休み）ウェブ制作（サマセ2単位ではありません）
- ・シーズン4（3年後期）個人研究としてのゼミ論・メディア制作その他自由企画
- ・シーズン5（3年春休み）ラジオトークとディスカッション集中レッスン（स्पセ2単位ではありません）
- ・シーズン6（4年前期）シューカツしながらスキルを磨くレッスン
- ・シーズン7（4年後期）ゼミ論2・卒業制作など作品づくり（単位としての「演習4卒業論文」ではありません）

すべて合わせて10単位（2+4+4）。合宿などはゼミ生に任せます。2年次は土曜3時限目。作品制作は手間がかかるので、その前後の時間もあけておくこと。ゼミの時間に作業をするのではなく、作業のプロダクトをゼミに持ち寄るというスタイルで行きたい。本を読む場合も、あらかじめ全員が読んできてディスカッションするスタイルです。この程度のことができないのであれば大手メディア系には行けません。付いてきて下さい。いったんゼミ生になった限りは卒業までめんどろみみすから、多少のことで脱落しないで下さい。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

上記の作品の目安は、文章なら3000字程度。ゼミ論は1万字以上。ただし精度の高い論文形式を要求しません。カルチャー系雑誌の特集記事程度のレベルのものをたくさん書けるようにします。シューカツまでには、以下の本程度の作品をチームで書いていただきます。もちろん篤いサポートをします。

- ・増田明子『MUJI式：世界で愛されるマーケティング』日経BP社、2016年。
- ・新城カズマ『物語工学論：キャラクターの作り方』角川ソフィア文庫、2012年。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

就職先はいろいろです。

金融系：銀行（メガバンク・地銀）・証券（日興・大和）・農協・ゆうちょ

メディア系：新聞（地方紙）、テレビ（地方局）、印刷、広告代理店（メトロ・九州電通・ネット系）、雑誌編集（ファッション）、メーカー広報、制作プロダクション

教員：情報科教員、美術科教員

通信交通系：郵政、キャリア本社（ソフトバンク）

サービス系：ブライダル、不動産（東急リバブル）、ホテル、食品、スーパー、デパート、アパレル、メガネ、美容ファッション、イベント企画、料理教室（ABC）、カフェ

商社

IT系・ベンチャー系：SE

空系：航空自衛隊

海系：船乗り

その他：会社設立、プロカメラマン、結婚、大学院進学、他大学編入学

多彩でしょ。特別な指導をしているわけではありませんが、野村ゼミは経済学部らしさも突破しつつあります。

東京本社の新旧メディア系大企業への就職は相変わらず厳しいので、何の準備もなしに内定が取れることはまずありません。例年、記念に玉砕覚悟で受ける人が少なくないのですが、それでも心が折れるの

でやめておいた方が賢明です。なので希望がある人は早めに決断して準備して下さい。かなりの勉強とトレーニングが必要です。野村ゼミではそれを意識して難易度の高いこと（どこの大学でもやっていないこと）をやります。

(6) 教員について(自己紹介等)

選抜されたら私の本やネット活動は読むようにして下さい。ネットには毎日何か数本書いています。私を見るのではなく、私が見ているものを見て下さい。何ごとも経験なので、できればコメントしてみてください。

<http://www.nomurakazuo.jp>

<http://www.socius.jp>

<http://www.facebook.com/nomurakazuo>

<http://www.facebook.com/sociorium>

Twitter @nomurakazuo

LINE socius.nomura

Pinterest sociorium

(7) その他

・土曜日に大学に来る5つのメリット

- 1 電車が空いていて通学が楽ちん。
- 2 人が少なくてキャンパスに風が通ってさわやか。
- 3 受講できる授業が少ないのでゼミに集中できる。しかもお昼どき！
- 4 帰りに渋谷に出ると街がホリデー気分がウキウキする。
- 5 教室や研究室で騒いでも怒られない。

・3年次・4年次ゼミの曜日はどうなるかわかりません。学部全体で調整されます。今年度は国内派遣研究で授業も校務もないので、そのかわり翌年度は（誰もやりたがらない）土曜日に設定される可能性が高いです。

・少なくとも第2次選考まで募集するつもりです。第2次選考合格発表時点に私まで連絡して下さい。メールは **R707FF【あつとまあく】** kokugakuin.ac.jp、LINE は **socius.nomura**、Facebook は **nomurakazuo** です。まずグループを作りましょう。最初のゼミカフェには必ず出席して下さい。期間内試験直後の予定です。

・飲み会や合宿や見学会の企画はゼミ生に任せます。これらは、たまにでいいので、その分、オシャレなところにして下さい。

・学生との雑談・長話は重要だと考えています。なのでゼミカフェは研究室で頻繁にやっています。用事がなくても815研究室でお茶会しにきてください。1人で考えていても大したことは思いつきません。よい考えは対話の中でのみ生まれます。

橋元 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|------|------|-------|-------|-------|------|
| 演習I | 演習I | 演習I | 演習II | 演習II | 演習II | 演習III | 演習III | 演習III | 演習IV |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|------------|-------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習A | | |
| コンピュータと情報A | 基礎演習B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 3人 | 3年女 | 5人 | 4年男 | 5人 | 4年女 | 4人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

- (1) テーマ 日本経済の構造と企業経営および雇用の特徴
- (2) キーワード 日本経済や企業経営と雇いを学ぶ、真面目に学びやり遂げる、ゼミ活動を大切に
- (3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年次の夏合宿(サマーセミナー(演習I))から始まり、4年次ゼミ卒業論文作成(演習IV)までの演習(ゼミ)関連科目 22単位すべてを履修するゼミです。途中の単位を落とした場合、それ以降は履修できません。夏合宿と後期ゼミは2~4年生合同であり、春合宿と前期ゼミは3~4年生合同です。授業期間中のゼミは2コマまたは3コマ連続です。月曜4限~6限に参加できない人は応募できません。

ゼミの全体概要として、①~④にゼミでやる内容、⑤で2年半のゼミ活動の主な流れを示します。

①日本経済関連の文献を輪読する(分担してレジユメを作成して報告発表、全員で議論しながら学ぶ)。

教科書を決め、全員で分担し、レジユメを作成して報告発表(プレゼンテーション)する。各人には、上級生の援助担当者が決められるので、その助言・支援を受ける。報告1週間前までにレジユメを作成し、援助担当者共々、橋元との面談を受け、報告準備を行う。教科書はゼミ生の希望を踏まえつつ決めるが、2年次は初歩的入門的文献、3年次前期は基礎的文献、3年次後期から4年次は基本的文献を教材としている。先輩が後輩の報告準備や発表をサポートし、教え教えられる関係の中で学び合う。

②ディベートやディスカッションを行う。

日本経済をめぐるテーマばかりでなく、身近な問題から時事問題など様々なテーマを取り上げ、輪読と並行してディベートまたはディスカッションを行う。これらを通じて、論理的思考力やプレゼンテーション能力、表現力を鍛え、また就職活動にも有用な能力を身につける。

③ゼミ卒業論文を作成する。

経済社会に関するものであればテーマは自由であるが、論文作成は必修。2年次春合宿から合宿のたびに中間報告を行い、4年次11月に一次提出し1月上旬に最終提出する。ゼミでの集団的な検討ばかりでなく、橋元による個別指導を継続的に受け(演習IVを含む)、完成させていく。

④ゼミ生で話し合い企画して各種イベントを実施する。

例年行っているのは、新歓コンパ、前期終了後の暑気払い(コンパ)、OB・OGによる面接指導会(模擬面接)、OB・OG懇親会、追い出しコンパである。この他には、企業・工場見学、忘年会、新年会、ボーリング大会などのスポーツ・レクリエーション、ゼミ後の飲み会など、年度によって様々であるが、ゼミ生で話し合って決める。

⑤2年半の学修概要(各種イベントは省略)

2年次8月初旬:ゼミオリエンテーション・新歓コンパ

2年次夏合宿のサマーセミナー(演習I):経済学・日本経済の初歩的入門的文献の輪読(分担発表)

- 2年次後期の演習I(2)：日本経済の**入門的基礎的文献**の輪読(分担発表)とディスカッション・ディベート
- 2年次春合宿のスプリングセミナー(演習I)：ゼミ卒業論文テーマ発表報告
- 3年次通年の演習II前期：日本経済の**基礎的文献**の輪読(分担発表)とディスカッション・ディベート
- 3年次夏合宿のサマーセミナー(演習II)：ゼミ卒業論文中間報告①と4年生の就活経験報告
- 3年次通年の演習II後期：日本経済の**基本的文献**の輪読(分担発表)とディスカッション・ディベート
- 3年次11月頃：OBOG会・就職面接指導会(模擬面接)および懇親会
- 3年次2月または3月：特別集中ゼミ(日本経済の現状と課題に関する集中輪読、約3~5時間)
- 3年次春合宿のスプリングセミナー(演習II)：ゼミ卒業論文中間報告②
- 4年次通年の演習III(4)前期：日本経済の**基本的文献**の輪読(分担発表)とディスカッション・ディベート
- 4年次夏合宿のサマーセミナー(演習III)：ゼミ卒業論文最終中間報告
- 4年次通年の演習III(4)後期：日本経済の**基本的文献**の輪読(分担発表)とディスカッション・ディベート
- 4年次演習IV(ゼミ論文作成指導)：上記のゼミ卒業論文テーマ発表報告・中間報告前に個別面談指導を受けるとともに、4年次には橋元の個別面談指導を受け、4年生だけの中間報告を適宜行う。
- 4年次1月：ゼミ卒業論文発表会

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

ゼミ卒業論文(演習IV)のみです。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融、情報サービス、メーカー、流通、広告、公務員、教員など、様々な分野へ就職しています。

(6) 教員について(自己紹介等)

1955年鹿児島県生まれ。横浜国立大学経済学部、東京大学大学院経済学研究科で学ぶ。(財)労働科学研究所を経て、92年から國學院大學経済学部教員、99年より教授。担当科目は日本の経済、現代日本経済、日本経済と政策、経済特論(雇用と働き方)、スタディツアー、フィールドワーク(地域社会)など。

専攻領域は、社会政策および労働経済、日本経済の実態調査。全国各地の自治体や経済団体および企業・労働組合のインタビュー調査やアンケート調査を行ってきました。

学生諸君には、大学で自分らしさを探求し、自分らしく生きていくために必要な知恵を身につけてほしいと願っています。ゼミはそのための絶好の場。私もゼミ生と一緒に誠実で真剣なぶつかりあいをしていきたいと思っています。酒は弱く、無趣味人間です。あえて言えば、議論好き。多芸多才にあこがれますが、そのセンスはまるで駄目なので、ゼミ生達にいっぱい教えてもらっています。

(7) その他

ゼミの場にいるだけではダメ！自ら能動的に学ぼうとする意欲をもつ者、ゼミで多くを吸収し自分もゼミに貢献しようと努力する者、授業としてのゼミを越えた仲間づくりや交流を大切に思う者を求めます。ゼミは、ゼミ生自身が創り上げるもの。学ぶこと、遊ぶこと、先輩・友人との交流など、いくらでも広く深いものにすることができます。しかも、生涯にわたって続く関係の出発点です。入ゼミ希望者には、2年半しっかり学ぼうとする姿勢をもち、ゼミ卒業論文をやり遂げ、意欲的に発言することを期待しています。自分に合っているかどうか、見学してよく考えて応募してください。

秦 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|-----|------------|-----|------------|------------|-----|------------|-----------|-----|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ サマセ | 演習Ⅲ 後期 | 演習Ⅳ |
| | ○ | ○ | ○ | | | | | | |

※秦先生が定年のため3年生までのゼミになります（4年次にゼミはありません）。

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 会社入門 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | 財務会計 |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 9人 | 3年女 | 2人 | 4年男 | 8人 | 4年女 | 7人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

- (1) テーマ
ベンチャーの経営とファイナンス
- (2) キーワード
ベンチャー、起業家、ベンチャーキャピタル
- (3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)
2年次：基本的な文献の輪読
3年次：神奈川産学チャレンジプログラムへの参加（5月～10月）
様々な資料を基に議論
「の～びのび経済」への共同論文作成（後期）
夏休みの研修旅行（3泊4日程度：今年度の行先未定）
- (4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）
神奈川産学チャレンジプログラムの報告書は3～4人チームでA4用紙15～20枚程度
「の～びのび経済」の共同論文は全員でA4用紙15～20枚程度
- (5) 先輩たちの主な就職先と傾向
今までの卒業生（200人程度）の約30%は銀行、証券、生損保、ノンバンクなど金融関連
会社に就職、その他はバラバラ
- (6) 教員について(自己紹介等)
1949年京都市生まれ、2歳頃山口県岩国市に移り14年そこで育つ、その後広島県三原市を経て兵庫県尼崎市へ、兵庫県立尼崎北高校卒業、早稲田大学政治経済学部卒業、早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了、1974年（株）野村総合研究所入社、20年間勤務、最後の3年半野村グループのベンチャーキャピタル（株）ジャフコに出向、1994年國學院大學経済学部に転職、2004年-2008年経済学部長、2006年-2014年学校法人理事、1999年-2001年米国スタンフォード大学 IIS(Institute of International Studies)Visiting Scholar
- (7) その他
真面目に意欲的に勉強する学生を望む

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III ○ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習IV ○ |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 会社入門 | | 経営戦略の基礎 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | 経営組織 | |
| キャリアデザイン | | | | 経営理論入門 | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 7人 | 3年女 | 6人 | 4年男 | 6人 | 4年女 | 2人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

経営戦略論・組織論の学修と応用

(2) キーワード

戦略論, 組織論, イノベーション

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

企業経営に関連した社会現象を自分なりに分析し、説明できるようになるために、多様なフレームワークの学修と具体的な事例分析を両輪としたゼミナールを開催する。

経営学は実学としての側面が非常に強い学問である。この分野を学修する目的の一つは、現実の社会（とりわけ経営に関する社会現象）の動きに対して自分なりの読みを生成できる実務家になることといっても過言ではないだろう。そのためには、理論を学び、実際にそれを使って現象を分析し、さらにフィードバックを受けるといった理論と現実の往復運動が必要である。本ゼミナールでは経営学的な力量を身に着けるために、この一連のプロセスを行っていく機会を提供する。

2年次には、とっつき易いけれども深く読むのは難しい書籍を読み、戦略論や組織論といった関連領域の理論・フレームワークを使って事例を分析してみる、という2つの課題に取り組んでいく。詳細についてはシラバスを確認すること。

2年次後半から3年次も基本的には書籍を読み、理論を使って力量を高めるというスタンスに変わりはない。ただし、読む本の難易度はやや高くなる予定である。また、3年前期には「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加、3年後期には「の～びのび経済学」への論文投稿など、学んだことを活かす機会に積極的に参加していくことになる。これらを通じて理論と現実の相互理解を深めながら、4年時には卒業論文の執筆を行っていくことになる。

正規授業以外の予定としては、夏に3泊の合宿、工場見学(未定)、懇親会(月1回)を予定している。また、2年次の春休みにも2週に1回程度のペースでゼミを行う。まだ卒業生がいないためOBOG会の実施予定はないが、2018年度から開催予定である。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

演習Iの半ばから、事例分析をレポートにまとめていくプロジェクトに取り組む（A4で20枚-30枚程度）。演習IIでは神奈川産学チャレンジプログラム（A4で10枚程度）や『の～びのび経済』への論文投稿を行う（A4で20-30枚程度）。演習IIIでは、演習IVの履修を放棄する場合、単位修得のための最終レポートを執筆する。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

昨年度が初開講であるため、就職先については現ゼミ生に期待している。

教員もかつて就職活動を経験した身としては、できる限りサポートするつもりである。

(6) 教員について(自己紹介等)

2016年着任。授業は、経営戦略論・組織論を担当。現在は、映画製作・配給・上映という巨大なシステムを対象として、大規模な技術システムが変化するときどのような経営上の問題が生じ、それが解決されていくのかを歴史的に研究している。

個人的なこととしては、趣味は比較的多く、はまったらとことんやり込む性格。

オフィスアワーに私の研究室にきてくれれば、研究や勉強、授業に関する質問だけでなく、（時間があれば）雑談なども歓迎するつもりである。

(7) その他

①コマについて

複数学年合同のゼミを開催する。公開されている開講時間の前後1コマには出来る限り授業を入れないようにすること。原則として2コマ連続で参加することが前提となる。

②ゼミのスタンス

ゼミナールは、大学生活で最も優先しなければならない活動である。アルバイトやサークル活動、旅行、帰省、デートなど学生にはやらなければならないことが多く存在しているが、ゼミナールはこれらに優先される。それは、ゼミが大学における学修の中心的位置づけであると同時に、ゼミで一緒に学ぶ仲間や教員との交流は一生続いていくものだからである。

特に私のゼミでは、それなりに難しい書籍をかなりの準備時間をかけて読んできてもらい、高い水準のレジュメの提出を要求し、それに対して教員も厳しく指導していく。また、レポート課題もそれなりの分量を課される。そのため、生半可な気持ちで受講するのはやめておいた方がよい。しかしながら、学生諸君が努力した分だけ成長できるよう教員も全力で指導するので、厳しいゼミでしっかり学びたいという意欲のある学生は是非受講してほしい。

以上のスタンスに同意できない者の受講は認められないため、注意すること。

古沢ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 環境・開発問題入門 |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | |
| キャリアデザイン | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 3年男 | 8人 | 3年女 | 9人 | 4年男 | 16人 | 4年女 | 6人 |
|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|

(1) テーマ

環境と開発：生活・地域・国際分野まで現代的課題を考える

(2) キーワード

環境・開発、国際協力、食・農・地域・暮らし

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

教室では、政府や団体のレポート（白書を含む）、課題図書を読み合わせ、個別発表をおこなう。ほかに、環境問題や国際協力のイベントなどに参加して、各自が学んだことを報告・発表しあう。合宿では有機農業などを体験します。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

学外企画、イベントや NGO 活動、セミナーなど、幅広く実社会での活動に参加することを重視します。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

様々な分野に就職先を見つけています。たまに NPO（非営利団体）で活躍する人もいます。

(6) 教員について(自己紹介等)

本学での学際分野の共存学プロジェクトや環境・開発分野での NGO（非政府組織）など、幅広く社会的活動に関わっています。

(7) その他

経済学部の教員のホームページから、古沢ゼミのサイト等を参照してください。サステナブル・ブランド・ジャパンのサイトでコラム連載中：<http://www.sustainablebrands.jp/>

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 会社入門 | | 経営戦略の基礎 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | 経営理論入門 | | マーケティングの基礎 | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 5人 | 3年女 | 10人 | 4年男 | 8人 | 4年女 | 7人 |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

現代企業のマネジメントをめぐる諸問題とその理解

(2) キーワード

経営学, 企業経営の課題, 理論と現実

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【内容】

本演習では、企業経営をめぐる諸問題（毎年テーマは異なる）に関して、それらに関する基本的な諸概念、ロジックを学習したのち、その分析枠組みについてできるだけ具体的なケースを踏まえつつ理解する。その際、特定の専門分野（例えば、経営戦略）のみを学習するのではなく、「経営学」全般（経営管理、経営組織、マーケティング等）の知見はもちろん、場合によっては「心理学」「社会学」「経済学」「歴史学」「人類学」などの知見を踏まえて「総合的」に学習する。

2年次は企業経営の全般的な問題について、特定の時代や場所に依拠しない一般的・普遍的なものを意識して取り上げる（シラバス参照）。また、複眼的な思考法、アイデア創出法、プレゼン方法などゼミ活動に必要不可欠な「学びのスキル」についても学習する。3年次は「神奈川産学チャレンジプログラム」や「インナー大会」への参加を通じた実践的な「課題解決型学習」(Problem Based Learning)に取り組む。3年前期の演習（戦略論もしくはマーケティング理論を予定）は、このプログラムでの取り組みにおいて参考となる基本ロジックとフレームワークを含んでいるので、レポート作成と同時並行的に進め相互理解を深めていく。3年後期の演習では、選定したテーマ（組織論を予定）に関してグループに分かれ、具体的な事例にもとづく論文作成・投稿を行う。これによって、理論と現実の相即的理解を目指すとともに、次年度の「演習Ⅳ」（卒業論文執筆）へ向けた予行演習とする。

なお、正課授業以外として、合宿（年1～2回程度）、フィールドワーク（工場見学等、年1～2回）、懇親会（月1回程度）、OB・OG会（年1回）を実施している。

【方法】

- ① まず、オーソドックスに本の精読（輪読）を通じて、「深い知性」（情報を正確に読み取る力、もごとの筋道を追う力、自分の論理をきちんと組み立てられる力）を涵養する。初めは、1回あたり10ページを目安に進め、基礎的な諸概念、内容に関して徹底的に理解するとともに、具体的な事例を取り上げながら読み進める。その後慣れてきたら1回あたりの分量を増やしていく。
- ② 次に、具体的なケースを踏まえてグループ・ディスカッションを行い、「複眼的な思考法」（自分＋他人の観点からもごを多角的に捉えて考え抜く方法）を身につける。
- ③ 最後に、プレゼンテーションや神奈川産学チャレンジプログラムでの発表を通じて、「コミュニケーション能力」（自分の意見をわかりやすく伝える力、他の人の意見に自分の意見を関連付けて議論を発展させる力、異なる意見を持つ相手を説得する能力）を習得する。

なお、基本的に連続コマ（90分×2）で実施する。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

演習Ⅱの前期では、神奈川産学チャレンジプログラムやインナー大会での報告書を作成する。演習Ⅱの後期では、テーマに関して具体的な事例を踏まえた論文をそれぞれグループ単位で作成し、『の～びのび経済』に投稿する。また、演習Ⅲの単位修得要件としてレポートを個別に作成してもらうことがある（演習Ⅳを履修放棄する場合）。いずれも A4用紙 15枚（図表、参考文献含む）が目安となる。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

メーカー、金融、証券、保険、建設、不動産、小売、アパレル、サービス、ソフトウェア、ロジスティクス、税理士事務所、小学校教諭等、業種の傾向はあまりない。

(6) 教員について(自己紹介等)

山形県出身。専門は経営管理論、経営組織論、経営戦略論。座右の銘は、「祖国があなたに何をできるかを問うのではなく、あなたが祖国に何ができるかを問うて欲しい。」（by John F. Kennedy）

(7) その他

このゼミを希望する学生は、以下の2点について熟読、理解したうえで応募して欲しい。

【大学およびゼミでの学び】

大前提として、①与えられた知識・情報を習得して満足しない、②与えられた知識を鵜呑みにしない、③問題解決に必要な知識・情報を自ら探索すること。そのうえで、「自分の目の前の問題を自分なりに経営の問題として捉えることができるようになり、自分の頭で答えを出そうとする姿勢と作法を身につけること」。ただし、問題意識や知的好奇心をもちながら（個別に）研究してもらって結構だが、その研究意義や価値判断（何のために学ぶのか）も変わらず重要であるから注意してほしい。

【ゼミの捉え方】

ゼミは単に「専門テーマを学ぶ場所」ではなく、「他者と協働して根気強く共通テーマに取り組む場所」であると認識している。また、人格的なつながりや衝突を通じて「人格を陶冶する場所」として捉えて欲しいし、結果として社会的に有用な人材輩出ができるように鍛えるつもりでいる。最後に、2年半の演習で完結するのではなく、その後も何らかの形でつながりを維持してくれることを期待する。

細井 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅰ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅱ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ | 演習Ⅳ |
| サマセ | | スプセ | | サマセ | スプセ | | サマセ | 後期 | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 世界の経済 | | 国際経済 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | | 会社入門 | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 3年男 | 3人 | 3年女 | 3人 | 4年男 | 1人 | 4年女 | 1人 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|

(1) テーマ

「グローバル・エコノミーとビジネス—新興国市場攻略の戦略」

ここ最近では上述のテーマを掲げていますが、国際経済と国際経営の分野で各自が関心をもっているテーマを深めていくことがこのゼミのスタイルです。理論的なことに取り組みたいという学生はまずいませんが、地域経済統合などの貿易分野や各国経済、途上国開発問題などの経済的な面、企業の国際事業展開などの経営的な面から世界を学び、考察することが目的となります。

途上国開発問題をテーマにするゼミ生が比較的多いです（その次が国際ビジネスをテーマにするゼミ生が多い）。たとえば、「途上国の大きな問題として貧困問題がある」とします。その際に「途上国の人がかわいそうだ、貧困で困っている人のために井戸掘りとか何か行動を起こさなければいけない」と感情論が先立つ人は他のゼミを選択した方が幸せになれる。このゼミでは「途上国はこれまで多額の援助を受けているはずだが、なぜ貧困が解決されないのか」というように、冷静に（時には冷徹に）国際社会の現状を把握し、そうした問題の解決にはどのようにすべきかを熟慮するプロセスを取っていきます。

なお、最近のゼミ生の個人テーマとしては東南アジア、南アジア、アフリカなどの各国（地域）経済、国際マーケティング、企業の国際展開と社会的責任、国際通商システム、サービス産業国際化、スポーツイベントの経済効果、異文化マネジメントなどです。

(2) キーワード

国際経済 途上国経済 国際経営

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期は統一のテキストを用いて、3年以降に備え基礎知識の定着を図ります。

2年と3年の間の春休み（3月下旬）に春合宿を行い、3年以降のゼミ活動の基礎を作ります。3年以降のゼミは、3・4年合同2時間連続で行います。3年以降のゼミについては自分たちで進め方を決めてもらいますし、個人のテーマも自分で設定することになります。「与えられた」課題をきちんとこなすこと「だけ」が得意な人は向いていないと思います。参考までに今年前期の場合は、1時間を卒論に向け各自が関心をもっている分野についての専門書を読み、その本の内容についての報告を行い、もう1時間

で TED を題材にして討論を行っています。

夏休みにはゼミ合宿を行います。後期は両学年共に卒論に向けた報告が中心になります。そして、4年の終わりには卒論を書き上げます。

なお、夏合宿は国外で実施します（3年と4年の2回）。現地では関係機関、企業、援助団体、大学など訪問・視察を行います。机の上での勉強だけではなく、実際に経済・経営の現場を自分の肌で実感する貴重な機会です。今夏はインドを予定しています。手配、準備等は全部自分たちでやってもらいます。皆さんが実際に行くことになる次年度以降はどこにするか未定ですが、行くとしても普通の観光で訪れる機会があるところは対象にしません。単なる旅行ではないので。現地での企業訪問は貴重な経験になります。他大学や企業の方にお褒めの言葉をいただくことも増えました。目立たないですが、この大学で他にこういう経験ができるゼミはないでしょう。貴重な経験を自分の成長の糧にしてください。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）
3年終了時に10,000字程度の中間卒論を提出してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

就職率100%を初代から継続中です。業界は様々で、第1期生は30歳を超え、海外勤務も本格的に出てくる時期になります。アジアの僻地を飛び回っている人もいます。運輸・物流系（貿易サービス）や商社系、そして経済学部以外のゼミに比べメーカーが多いような気がします。就活の相談はいつでも乗りますが、いわゆる有名企業ではなく、身の丈に合った（知名度はないが世界シェアトップクラスなどの）「有力・優良」企業を発掘するコツを伝えることに力を入れる方針です。

また、毎年秋にOB会があり、色々な話を聞くことができるとともに、タテのつながりも強めています。面接で聞かれた内容や雰囲気、エントリーの詳細などを記した就活報告書をゼミOBがゼミの後輩のために残しています（落ちた会社も含めて）。

(6) 教員について(自己紹介等)

2006年に着任、担当する授業科目としては「世界の経済」、「国際経済」、「国際経営」などです。

(7) その他

・日本でも星野リゾートのように喫煙者の採用をしない企業が出てきています。こうした状況に鑑み、選考の際、喫煙者のプライオリティは最下位にします（なお、2010年にこの方針を打ち出して以降、これまで喫煙者でこのゼミに合格した人はいないことを申し添えます）。

・卒業までに「世界の経済」、「国際経済」、「国際経営」の3科目の単位は必ず取ってもらいます。現時点では「世界の経済」は修得済ないしは現在履修中であるようにしてください。3科目すべてを取れない場合、ゼミをクビになります。その他、各自のテーマに応じて履修すべき科目を指定していきます。また、卒業までの2年半を継続して取り組めることも条件とします。今春卒業し、近年の経済学部卒業生としては珍しく中学校の先生に現役合格したゼミ生が「ゼミくらいのことをきちんとやれないような人が社会（会社）に出てきちんとやっていけない」と4月中旬にして忙しすぎるとぼやきながら言っていました。その通りだと思います。

・国立大学の先生に「国立大学よりいい環境でゼミをやっている」と言われたことがあります。応募者そのものが少なく、また、集まってくれる学生もよい人ばかりのため、自らが勉強したいテーマに真剣に打ち込み、また夏には国外に出掛け企業訪問ができる環境にあります。あれこれ指図することはしま

せん。ゼミ生が自発的にゼミを進めてくれます。現時点で「自由」の意味をはき違えていないようにお願いします。

・夏休みには海外に進出している日系企業へ訪問します。先進国ではなく途上国が中心になります。外国はハワイしかダメとか、異文化理解・尊重ができないとか、エスニック料理が食べられない（日本食しかダメ）とか、インドをバカにしているといった人は不向きです。また、9月上旬から中旬の時期に設定する予定です。全員参加ですので、この時期に別の用事があるとか、公務員試験を目指すなどの場合はこのゼミへの応募そのものを再考してください。

細谷 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|----------|------------|------------|-----|------------|-----------|----------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ ○ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ ○ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ | 演習Ⅲ サマセ | 演習Ⅲ 後期 | 演習Ⅳ ○ |
|------------|----------|------------|----------|------------|------------|-----|------------|-----------|----------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-------------|--------|------------|--|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 経済理論入門 | | ミクロ経済学 | |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | 経済統計の見方 | | マクロ経済学 | |
| キャリアデザイン | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|---|-----|---|
| 3年男 | 3人 | 3年女 | 3人 | 4年男 | 人 | 4年女 | 人 |
|-----|----|-----|----|-----|---|-----|---|

(1) テーマ

このゼミではマクロ経済学を中心に幅広く学んでいきますが、なかでも長期の時間視野を対象とした経済成長の理論分析と実証分析に焦点をあてます。加えて、わが国の長期的経済動向に重大な影響を及ぼしてくる社会保障問題についても、統計学的なアプローチをまじえながら多角的に取り扱います。

(2) キーワード

マクロ経済学，経済成長論，社会保障論，統計学，計量経済学

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【2年次】

- 社会保障関連の専門書籍および統計学・計量経済学の基礎的なテキストの輪読を通じて、効果的なプレゼンテーションの技法を身につけます。

【3年次】

- マクロ経済学の定評ある英文テキストブックについて、1年をかけて丹念に輪読していきます。
- サマーセミナーを実施します。ここで年度末に提出してもらうミニ論文の構想を発表してもらいます。

【4年次】

- 卒業研究に集中的に取り組んでもらいます。経済理論，統計的手法を用いたものならば，テーマは原則的に自由です。

(4) 演習Ⅳ以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

上に記したように、3年次のまとめとして、学習したトピックスのなかから各自関心のあるものを選び、ミニ論文を書いてもらうことを予定しています。提出時期は2月、枚数はA4版横書きで10枚以内です（要旨、図表、参考文献リストを含めて）。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

國學院大學での実績はありませんが、前任校では公務員等（国家一般職，国立大学法人事務，県庁，市役所，警察官等），民間企業（メーカー，地方銀行，商社等），教員（私立高校），大学院進学（名古屋

大学、東北大学)とさまざまな分野にゼミ生たちは進んでいきました。特徴としては、公務員が多いですが、そのための対策等をゼミで行ったことはありません。私はただひたすら闘魂を注入しておりました。

(6) 教員について(自己紹介等)

岩手で高校までを過ごしました。その後、仙台→東京(国立)→仙台と渡り歩き、今春から國學院に赴任しました。経済学の専門的なトレーニングは一橋大学大学院で受けました。主専攻はマクロ経済学、副専攻は公共経済学(医療経済学、教育の経済学等)です。好きなこと(もの)は、車の物色や運転、ラーメン・蕎麦店めぐり、小旅行、古書収集、ビール(大衆的なものから比較的珍しいものまで)等。最近の日常は子供中心ですね(小学生の宿題点検、保育園送迎等)。

(7) その他

- 良識ある善良な市民を育成したいです。
- 高い目標を掲げて努力を惜しまない人を応援します。
- 学年横断的で一体感をもったゼミを目指しています。
- ゼミ合宿やコンパなどはゼミ生と相談しながら決めていきます。

水無田 ゼミ

| | | | | | | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------|------|
| 演習I サマセ | 演習I ○ | 演習I スプセ | 演習II ○ | 演習II サマセ | 演習II スプセ | 演習III サマセ | 演習III 後期 | 演習III | 演習IV |
|------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------|------|

| 修得済み科目 | | 教員指定修得済み科目 | 履修しておくことが望ましい科目 |
|-------------|--------|------------|-----------------|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | | 経済学特論（ジェンダーと経済） |
| コンピュータと情報 A | 基礎演習 B | | 社会と人間（身体文化論） |
| キャリアデザイン | | | 人間と社会（社会学入門） |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|---|-----|---|
| 3年男 | 10人 | 3年女 | 4人 | 4年男 | 人 | 4年女 | 人 |
|-----|-----|-----|----|-----|---|-----|---|

(1) テーマ

私たちが日ごろ目にする衣服や建築等のデザインは、社会の身体観や人間観を表現しています。この演習では、「身体」を切り口に社会の「今・ここ」を検証します。一見個人的な出来事に見えることがらを社会構造と結びつけて考察する力を、C. W. ミルズは「社会学的想像力」と呼びました。本演習では、この社会学的想像力を身につけるために、現実の多様な事例を取り上げます。

たとえば、ファッション・建築・日用品等日常的に目にしたり手に触れられるものの成り立ちや、それらがいかに消費市場やマーケティングの対象となるのかの検討、スポーツ・ロボット・映像表現等身体技法や身体感覚についての先鋭的な事例研究、ゲームやアニメなどのサブカルチャーやメディアに見られる美的表現の解説、身体観とジェンダーやセクシュアリティの関係、さらにバリアフリーやユニバーサルデザインといったデザインが提起する、「美しい」「健康的な」身体観のはらむ問題の再考などが、射程範囲となります。

「身体はすべての人間に共通したものである。人間の住んでいる社会的条件だけが変化する。そこで、人間の身体に基づく象徴は、さまざまな社会経験を表現するのに用いられるのだ」とは、文化人類学者メアリー・ダグラスの言葉です。このように身体とは、生理的・自然的な条件であるとともに、ローカル文化特性や社会的側面を色濃く反映したものです。これらの検証を通じ、各自が多様な学問的興味・関心を見出し、今日の文化と社会の特性を研究することが、本演習の眼目となります。

(2) キーワード

メディア、ジェンダー、消費、身体文化社会学

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

演習I（2年生後期）では、前半にテキストを精読しつつ各自の関心領域を精査し、各ジャンルについての報告・討論を重ねて行きます。後半には各自の研究テーマをさらに検証し、まずは主体的に学び報告するための基礎固めを行います。

演習II（3年次通年）では、各自の研究テーマへの取り組みを深めて行き、年度末までにゼミ論文執筆指導を行います。論文の書き方、資料収集、フィールド調査、研究報告などについて詳細な方法論を指導して行くので、各自の積極的な取り組みを歓迎します。

(4) 演習IV以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

- ・ 2年生：各自の研究テーマに沿ってレポート作成（3000字程度）。
- ・ 3年生：各自の研究テーマに沿ってゼミ論文作成（20000～40000字程度）。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

昨年度開講のゼミにつき、まだ卒業生はおりません。みなさんの手で伝統を作っていただけましたら幸いです。

(6) 教員について(自己紹介等)

文化社会学を専門とし、これまで多くの大学で教鞭を執り研究活動を行う傍ら、現代詩人として中原中也賞、晩翠賞といった賞を受賞し、社会評論や経済評論以外にも、文芸評論、美術評論、歴史評論、さらにはゲーム評論など多様なジャンルの執筆活動をしています。出身は神奈川県相模原市の国道16号線沿いで、ロードサイド型の大型ショッピングセンターが建ち並ぶ現在の「日本の郊外」の走りのようなところで育ちました。チェーン店の居並ぶ均質化された風景を見て育ったためか、異なる文化集団や風土性に関心が高まり、学部生のころはバックパッカーをやって、世界中をふらふら歩き回っていました。役立つと思わずやってきたことがほぼ軒並み評論の対象になってしまい、純粋な趣味を失いつつある今日このごろです。私は長年文章で食べてきたため、諸君には最低限、文章を読み書きする技能だけはしっかり指導させていただきたいと思っています。

(7) その他

今日の社会は、グローバル化が進展する中での地産地消など「ローカル」文化の再評価や、「ファスト」な消費市場が席卷する中でエンカル消費・ソーシャル消費など社会的意識の高まり、メディアの進展により変容する「身体」へのまなざし、家族やジェンダー規範の保守化と同時進行するLGBT市場への期待など、一見矛盾する事態までもが並置されています。その負の側面も含め、高速で変化して行く現代社会の様態を読み解くために、「文化」は大きな手がかりになります。それは公正さだけでは解消し得ない、人々の望ましさや欲望にも根ざしています。これらを学ぶことは、今日の社会を読み解く大きな武器になると考えておりますので、積極的な参加を歓迎いたします。

◇教員の研究室一覧(第一次募集を行う教員のみ)

| 若木タワー | 教員名 | 研究室番号 | メールアドレス |
|-------|--------|----------|---------------------------------|
| 8 階 | 中田 有祐 | 0813 研究室 | nakata_yusuke@kokugakuin.ac.jp |
| | 小木曾 道夫 | 0814 研究室 | ogiso@kokugakuin.ac.jp |
| | 野村 一夫 | 0815 研究室 | R707FF@kokugakuin.ac.jp |
| | 根岸 毅宏 | 0818 研究室 | negishi@kokugakuin.ac.jp |
| | 橋元 秀一 | 0819 研究室 | hsyu@kokugakuin.ac.jp |
| | 東海林 孝一 | 0820 研究室 | shoji@kokugakuin.ac.jp |
| 9 階 | 紺井 博則 | 0903 研究室 | kon49@kokugakuin.ac.jp |
| | 中泉 真樹 | 0905 研究室 | nmaki@kokugakuin.ac.jp |
| | 水無田 気流 | 0906 研究室 | kiriuminashita@kokugakuin.ac.jp |
| | 土田 壽孝 | 0908 研究室 | toshi@kokugakuin.ac.jp |
| | 久保田 裕子 | 0910 研究室 | kubota@kokugakuin.ac.jp |
| | 秦 信行 | 0911 研究室 | hatanobu@kokugakuin.ac.jp |
| | 古沢 広祐 | 0912 研究室 | furusawa@kokugakuin.ac.jp |
| | 藤山 圭 | 0913 研究室 | k.fujiyama@kokugakuin.ac.jp |
| | 尾崎 麻弥子 | 0914 研究室 | mayaozaki@kokugakuin.ac.jp |
| | 細谷 圭 | 0915 研究室 | khosoya@kokugakuin.ac.jp |
| | 野田 隆夫 | 0916 研究室 | tnoda@kokugakuin.ac.jp |
| | 高橋 克秀 | 0917 研究室 | taka8664@kokugakuin.ac.jp |
| 10 階 | 細井 長 | 1001 研究室 | hosonaga@kokugakuin.ac.jp |
| | 尾近 裕幸 | 1003 研究室 | okon@kokugakuin.ac.jp |
| | 金子 良太 | 1004 研究室 | rkaneko@kokugakuin.ac.jp |
| | 中馬 祥子 | 1005 研究室 | chuma@kokugakuin.ac.jp |
| | 田原 裕子 | 1006 研究室 | ytahara@kokugakuin.ac.jp |
| | 星野 広和 | 1007 研究室 | hoshino-h@kokugakuin.ac.jp |
| 15 階 | 石井 里枝 | 1514 研究室 | rishii@kokugakuin.ac.jp |

※経済学部資料室：9 階 【開室時間 9：00～17：00】

◇募集スケジュール

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 学生委員会主催説明会 | 5/10 (水) 午後 |
| 応募受付期間(K-SMAPY) | 5/24 (水) 正午～5/30 (火) 12:50 |
| 選考期間 | 5/31 (水) ～6/6 (火) |
| 発表(K-SMAPY) | 6/12 (月) 20:00 (予定) |

平成 29 年度 経済学部 『演習 I』（ゼミ）募集日程

| 第 1 次募集 | | |
|---------|---------------|------------------------------------|
| ① | 説明会（学生委員会主催） | 5 月 10 日（水）午後 |
| ② | 応募期間（K-SMAPY） | 5 月 24 日（水）正午～5 月 30 日（火）12 時 50 分 |
| ③ | 選考期間 | 5 月 31 日（水）～6 月 6 日（火） |
| ④ | 発表（K-SMAPY） | 6 月 12 日（月）20 時（予定） |

| 第 2 次募集 | | |
|---------|---------------|------------------------------------|
| ① | 募集発表 | 6 月 16 日（金） |
| ② | 応募受付（K-SMAPY） | 6 月 16 日（金）正午～6 月 20 日（火）12 時 50 分 |
| ③ | 選考期間 | 6 月 21 日（水）～6 月 27 日（火） |
| ④ | 発表（K-SMAPY） | 7 月 3 日（月）20 時（予定） |

| 第 3 次募集 | | |
|---------|------------|--------------------------------|
| ① | 募集発表 | 7 月 6 日（木） |
| ② | 応募受付（登録用紙） | 7 月 6 日（木）～7 月 8 日（土）12 時 50 分 |
| ③ | 選考期間 | 7 月 11 日（火）～7 月 14 日（金） |
| ④ | 発表 | 7 月 19 日（水）20 時（予定） |

| 学士・編入（系列）募集 | | |
|-------------|--------|-------|
| ① | 募集案内 | 1 月上旬 |
| ② | 課題受理期間 | 1 月上旬 |
| ③ | 選考期間 | 1 月中旬 |
| ④ | 発表 | 1 月下旬 |

| 4 月募集（※在学 3 年次生 4 月募集、編入生第 2 次募集） | | |
|-----------------------------------|------|-------|
| ① | 募集発表 | 3 月中旬 |
| ② | 募集受付 | 4 月上旬 |
| ③ | 選考期間 | 4 月上旬 |
| ④ | 発表 | 4 月上旬 |